

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成24年6月18日
【事業年度】	第69期（自平成23年4月1日至平成24年3月31日）
【会社名】	ステラケミファ株式会社
【英訳名】	STELLA CHEMIFA CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役 深田 純子
【本店の所在の場所】	大阪市中央区淡路町三丁目6番3号
【電話番号】	(06)4707-1512
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員総務部長 高野 順
【最寄りの連絡場所】	大阪市中央区淡路町三丁目6番3号
【電話番号】	(06)4707-1512
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員総務部長 高野 順
【縦覧に供する場所】	ステラケミファ株式会社東京営業部 (東京都中央区八重洲一丁目4番16号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

(注) 上記の当社東京営業部は、金融商品取引法に規定する縦覧場所ではありませんが、投資者の便宜を考慮して、縦覧に供する場所としています。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次 決算年月	第65期 平成20年3月	第66期 平成21年3月	第67期 平成22年3月	第68期 平成23年3月	第69期 平成24年3月
売上高(百万円)	25,496	25,561	23,572	28,320	29,271
経常利益(百万円)	2,722	1,270	2,570	3,144	2,456
当期純利益(百万円)	1,757	359	2,291	1,812	943
包括利益(百万円)	-	-	-	1,658	829
純資産額(百万円)	16,044	15,647	17,603	18,615	18,977
総資産額(百万円)	35,581	37,089	36,679	39,717	40,200
1株当たり純資産額(円)	1,267.38	1,242.28	1,400.23	1,488.67	1,519.52
1株当たり当期純利益金額 (円)	142.93	29.19	186.32	147.36	76.69
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率(%)	43.8	41.2	47.0	46.1	46.5
自己資本利益率(%)	11.8	2.3	14.1	10.2	5.1
株価収益率(倍)	16.5	63.1	21.3	22.2	25.8
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	3,607	3,941	5,954	3,664	2,230
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	3,981	2,298	2,428	2,408	6,010
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	974	3,115	4,365	30	528
現金及び現金同等物の 期末残高(百万円)	1,479	6,182	5,284	6,426	3,191
従業員数 (ほか、平均臨時雇用者数) (人)	672 (47)	680 (69)	703 (56)	720 (59)	742 (63)

(注) 1. 連結売上高には、消費税等は含まれていません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載していません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次 決算年月	第65期 平成20年3月	第66期 平成21年3月	第67期 平成22年3月	第68期 平成23年3月	第69期 平成24年3月
売上高(百万円)	20,113	19,858	18,210	21,452	22,081
経常利益(百万円)	1,864	801	1,431	2,380	1,208
当期純利益(百万円)	1,178	20	1,491	1,315	328
資本金(百万円)	3,180	3,180	3,180	3,180	3,180
発行済株式総数(千株)	12,300	12,300	12,300	12,300	12,300
純資産額(百万円)	14,502	14,264	15,344	16,163	16,012
総資産額(百万円)	24,858	27,679	27,702	30,851	31,137
1株当たり純資産額(円)	1,179.12	1,159.73	1,247.59	1,314.17	1,301.89
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	33.00 (14.00)	33.00 (14.00)	37.00 (15.00)	38.00 (17.00)	38.00 (17.00)
1株当たり当期純利益金額 (円)	95.82	1.70	121.23	106.97	26.73
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率(%)	58.3	51.5	55.4	52.4	51.4
自己資本利益率(%)	8.3	0.1	10.1	8.4	2.0
株価収益率(倍)	24.6	1,082.9	32.8	30.6	74.1
配当性向(%)	34.4	1,941.2	30.5	35.5	142.2
従業員数 (ほか、平均臨時雇用者数) (人)	195 (17)	212 (35)	217 (21)	239 (28)	253 (31)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれていません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載していません。

2【沿革】

大正5年大阪府堺市において、橋本治三郎が橋本升高堂製薬所を個人創業し、硫酸塩を製造しました。
その後、事業を継承する形で、当社の前身となる合名会社橋本製薬所を昭和9年に設立しました。

年月	沿革
昭和19年2月	合名会社橋本製薬所の事業を継承するため、資本金40万円で橋本化成工業株式会社(大阪府堺市少 林寺町西四丁24番地)設立。
昭和20年11月	少林寺工場(大阪府堺市)で硫酸銅の生産再開。
昭和31年12月	三宝工場(大阪府堺市)を再開。フッ化水素酸設備を増設。
昭和36年4月	三宝工場にフッ化水素酸、フッ化アルミニウム、その他フッ化物設備を増設。
昭和38年7月	三フッ化ホウ素ガスの国産工業化に成功。
昭和45年7月	大阪府より泉北4区臨海工業地24,838㎡の譲渡を受け、泉工場(大阪府泉大津市)を設置。
昭和46年2月	三宝工場に乾式フッ化アルミニウム製造設備完成。
昭和48年5月	少林寺工場設備を泉工場に移設統合。
昭和59年9月	三宝工場内に、半導体用高純度フッ化水素酸クリーンプラント(PAS-)完成。
昭和62年4月	研究開発用高純度フッ化物クリーンプラント完成。
平成2年7月	本社を大阪市西区西本町二丁目3番6号に移転。 社名を橋本化成株式会社に変更、マーク・ロゴも変更。
平成2年10月	三宝工場内に、半導体用超高純度フッ化水素酸クリーンプラント(PAS-)完成。
平成3年6月	運輸部門を分離独立し、100%子会社ブルーエクスプレス株式会社を設立。
平成4年3月	アルミニウム合金製造停止。
平成5年10月	100%子会社ブループランニング株式会社を設立。損害保険代理業を開始。
平成6年11月	韓国に合弁会社フェクト株式会社を設立(出資比率39%)。
平成8年11月	泉工場内に、六フッ化リン酸リチウムの新プラント工場を完成。
平成9年3月	三宝工場内に、新事務棟・研究所を完成。
平成9年7月	社名を橋本化成株式会社よりステラケミファ株式会社に変更。
平成10年8月	三宝工場内に、フィルタープレス設備完成。
平成10年10月	泉工場内に、フッ化カリウムの新プラント工場(2号機)を完成。
平成11年4月	三宝工場内に、半導体用超高純度フッ化水素酸クリーンプラント(PAS-)完成。
平成11年10月	大阪証券取引所市場第二部に上場。
平成12年7月	自動車整備業の高石興生自動車株式会社に資本参加し、100%子会社(間接)とする。
平成12年10月	東京証券取引所市場第一部および大阪証券取引所市場第一部に上場。
平成13年1月	シンガポールに100%子会社STELLA CHEMIFA SINGAPORE PTE LTD を設立。
平成13年4月	高石興生自動車株式会社とブループランニング株式会社が合併し、ブルーオートラスト株式会 社となる。
平成14年10月	ブルーエクスプレス株式会社がシンガポールに100%子会社STELLA EXPRESS (SINGAPORE) PTE LTD を設立。
平成14年12月	中国に合弁会社浙江瑞星フッ化工業有限公司(当社出資比率55%)を設立。
平成16年11月	ブルーエクスプレス株式会社が中国に100%子会社星青国際貿易(上海)有限公司を設立。
平成18年6月	三宝工場隣接地(22,166㎡)を昭和電工株式会社より取得。
平成19年6月	100%子会社ステラファーマ株式会社を設立。BNCT事業を本格化。
平成19年9月	三宝工場内に、半導体用超高純度フッ化水素酸クリーンプラント(PAS-)完成。
平成20年3月	ブルーエクスプレス株式会社が中国に100%子会社青星国際貨物運輸代理(上海)有限公司を設 立。
平成20年7月	100%子会社ステラグリーン株式会社を設立。アグリ事業へ参入。
平成21年10月	アライズ・コーポレート株式会社を買収(100%子会社化)。蓄光事業へ参入。
平成22年4月	100%子会社コスメステラ株式会社設立。同年5月ステラファーマ株式会社よりコスメティック 事業を譲渡。

3【事業の内容】

当社グループは、当社、子会社11社および関連会社1社で構成され、高純度薬品の製造、仕入、販売を主たる業務としている他、運輸事業等を行っています。

当社グループの事業内容および当社と関係会社の当該事業に係る位置付けは次のとおりです。

(1) 高純度薬品

フッ化物を中心とする高純度薬品などの製造および販売を行っています。当社製品の用途は、半導体デバイスの高集積度を可能にする超高純度エッチング剤や洗浄剤、シリコンウェハにパターンを焼き付けるステッパーのレンズ原料などに使われています。また、携帯電話、デジタルカメラ、ビデオカメラ、ノート型パソコン、電動アシスト自転車、ハイブリッド車などに使われるリチウムイオン二次電池用の電解質、その他、液晶用ガラスの表面処理剤、フロンガスおよびフッ素樹脂の原料、医薬および農薬などの中間原料などに幅広く使われています。

(関係会社) ステラケミファ(株)、STELLA CHEMIFA SINGAPORE PTE LTD、浙江瑞星フッ化工業有限公司、ブルーエクスプレス(株)、星青国際貿易(上海)有限公司、フェクト(株)

(2) 運輸

主に、化学製品に特化した物流事業を中心に、倉庫保管業、通関業などを行っています。

(関係会社) ブルーエクスプレス(株)、STELLA EXPRESS(SINGAPORE) PTE LTD、青星国際貨物運輸代理(上海)有限公司

(3) メディカル

ホウ素中性子捕捉療法(BNCT)に使用するがん治療薬の開発・研究を行っています。

(関係会社) ステラケミファ(株)、ステラファーマ(株)

(4) コスメティック

基礎化粧品を中心に、化粧品販売業を行っています。

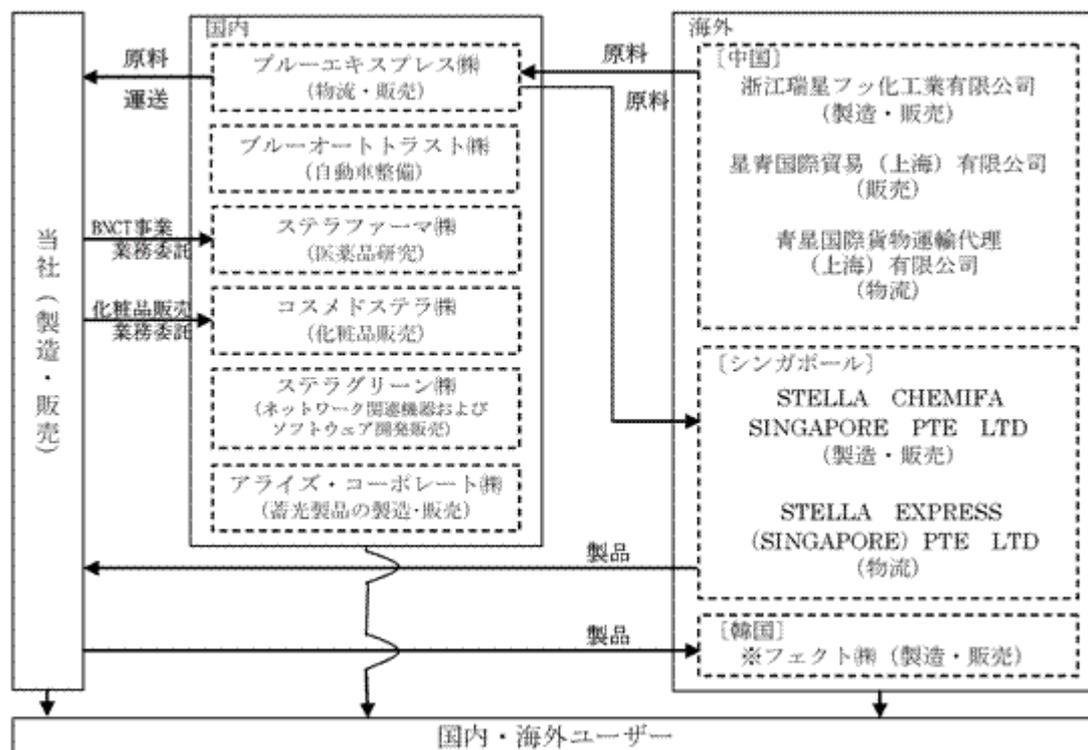
(関係会社) ステラケミファ(株)、コスメドステラ(株)

(5) その他

自動車整備業、保険代理業、ネットワーク関連機器およびソフトウェア開発・販売業、蓄光製品の製造販売業などを行っています。

(関係会社) ステラケミファ(株)、ブルーオートトラスト(株)、ステラグリーン(株)、アライズ・コーポレート(株)

〔事業系統図〕



(注) 無印 連結子会社 関係会社で持分法適用会社

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 または 出資金	主要な 事業の 内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
連結子会社 ブルーエクスプレス(株)	堺市堺区	百万円 350	運輸 高純度 薬品	100	当社製品の輸送・保管・通関等を行っ ています。 当社は原料を購入しています。 当社は土地を賃貸しています。 役員の兼任 4名
連結子会社 STELLA CHEMIFA SINGAPORE PTE LTD	シンガポ ール共和国	千S\$ 11,700	高純度 薬品	100	当社は製品を購入しています。 当社はロイヤリティを受け取っていま す。 同社の金融機関からの借入金に対して 当社は債務保証を行っています。 役員の兼任 1名
連結子会社 浙江瑞星フツ化工業有限 公司	中国浙江省	千人民元 48,510	高純度 薬品	55	当社は原料を購入しています。 役員の兼任 3名
連結子会社 ステラファーマ(株)	大阪市 中央区	百万円 100	メディカ ル	100	当社はホウ素中性子捕捉療法(BNC T)に使用するがん治療薬の研究を委 託しています。 同社の借入金に対して当社は債務保証 を行なっています。
連結子会社 コスモステラ(株)	大阪市 中央区	百万円 20	コスメ ティック	100	当社は化粧品販売業務を委託していま す。 役員の兼任 1名
連結子会社 ステラグリーン(株)	大阪市 西区	百万円 200	その他	100	当社はEMS事業を委託していました。
連結子会社 ブルーオートトラスト(株)	堺市堺区	百万円 20	その他	100 (間接100)	当社の各種保険の代理を行っています。
連結子会社 アライズ・コーポレート (株)	大阪市 中央区	百万円 10	その他	100	当社は資金の貸付を行なっています。 役員の兼任 3名
連結子会社 STELLA EXPRESS (SINGAPORE) PTE LTD	シンガポ ール共和国	千S\$ 200	運輸	100 (間接100)	役員の兼任 1名
連結子会社 星青国際貿易(上海) 有限公司	中国上海市	千人民元 1,655	高純度 薬品	100 (間接100)	当社は原料を購入しています。 役員の兼任 1名
連結子会社 青星国際貨物運輸代理 (上海)有限公司	中国上海市	千人民元 5,000	運輸	100 (間接100)	役員の兼任 1名
持分法適用関連会社 フェクト(株)	韓国忠清南 道公州市	百万W 3,200	高純度 薬品	39	当社は製品を販売しています。 役員の兼任 2名

- (注) 1. 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しています。
2. ブルーエクスプレス(株)、STELLA CHEMIFA SINGAPORE PTE LTDおよび浙江瑞星フッ化工業有限公司は特定子会社に該当しています。
3. 上記のうちには、有価証券届出書または有価証券報告書を提出している会社はありません。
4. ブルーエクスプレス(株)につきましては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が100分の10を超えています。
- 主要な損益情報等 (1)売上高 14,053百万円
(2)経常利益 675百万円
(3)当期純利益 394百万円
(4)純資産額 2,759百万円
(5)総資産額 8,519百万円
5. アライズ・コーポレート(株)は債務超過会社であり、平成24年3月末時点で債務超過額は11億33百万円です。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

(平成24年3月31日現在)

セグメントの名称	従業員数(人)
高純度薬品	399 (35)
運輸	285 (18)
メディカル	12 (3)
コスメティック	4 (1)
報告セグメント計	700 (57)
その他	42 (6)
合計	742 (63)

(注) 従業員数は就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(人材会社からの派遣社員を含む。)は、年間の平均人員を()外数で記載しています。

(2) 提出会社の状況

(平成24年3月31日現在)

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
253 (31)	36.0	11.2	6,575

セグメントの名称	従業員数(人)
高純度薬品	253 (31)
運輸	- (-)
メディカル	- (-)
コスメティック	- (-)
報告セグメント計	253 (31)
その他	- (-)
合計	253 (31)

(注) 1. 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(人材会社からの派遣社員を含む。)は、年間の平均人員を()外数で記載しています。

2. 平均年間給与は、賞与および基準外賃金を含んでいます。

(3) 労働組合の状況

当社の労働組合は、ステラケミファユニオンと称し、昭和38年10月1日に結成されました。平成24年3月31日現在の組合員数は185人であり、所属上部団体は日本労働組合総連合会です。

なお、労使関係については良好です。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1)業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災の影響を大きく受けたものの、緩やかながら回復基調となつてまいりました。しかしながら、欧州金融危機や急激な為替の変動、原油価格高騰などの影響もあり、依然として先行きに不透明感が続いています。

このような環境のもと、当社グループは国内外の情報通信産業を中心に、顧客のニーズに基づいた多種多様なフッ化物製品の供給を行うとともに、特殊貨物輸送で培った独自のノウハウに基づいた化学品の物流を担う事業展開を行ってきました。

当連結会計年度の売上高は292億71百万円(前期比3.4%増)となりました。増加した主な要因は、主力の高純度薬品事業および運輸事業の売上高が増加したことによるものです。利益面におきましては、主原料であります無水フッ酸の価格が上昇した結果、営業利益は24億6百万円(同30.9%減)、経常利益は24億56百万円(同21.9%減)となりました。また、当期純利益は特別損失5億86百万円(固定資産の減損損失等)を計上した結果9億43百万円(同48.0%減)となりました。

セグメントの業績は次のとおりです。

高純度薬品

高純度薬品事業につきましては、売上高は前連結会計年度と比較して主力の半導体・液晶部門は上回りましたが、電池部門は下回りました。その結果241億17百万円(前期比2.0%増)となりました。営業利益は原材料価格が高騰した結果29億7百万円(同35.4%減)となりました。なお、主要な部門別の売上高については次のとおりです。

(半導体・液晶部門)

半導体用の高純度フッ化物は期を通じて好調に推移しました。その結果、売上高は125億59百万円(前期比6.4%増)となりました。

(電池部門)

リチウムイオン二次電池用電解質の海外販売(主に中国)の減少等により、売上高33億22百万円(同18.1%減)となりました。

(表面処理部門)

液晶用ガラスの薄化などの需要が好調に推移したことにより、売上高は20億22百万円(同28.2%増)となりました。

運輸

運輸事業につきましては、運輸収入および倉庫関連収入の売上高が期を通じて好調に推移した結果、売上高は46億77百万円(前期比9.4%増)となりました。営業利益につきましては8億18百万円(同30.7%増)となりました。

メディカル

メディカル事業につきましては、前連結会計年度に引続き臨床実験などの先行投資費用が発生した結果、営業損失が6億26百万円(前期は、7億16百万円の営業損失)となりました。

コスメティック

コスメティック事業につきましては、売上高は2億22百万円(前期比118.5%増)となりました。営業損失は広告宣伝費などの費用の回収までには至らず2億80百万円(前期は、3億46百万円の営業損失)となりました。

その他

その他事業につきましては、売上高は2億54百万円(前期比17.7%減)となりました。営業損失はエネルギーマネジメント事業、ムーンライト事業の先行投資費用が発生したことにより4億21百万円(前期は、5億89百万円の営業損失)となりました。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）は、前連結会計年度末に比べて32億35百万円減少し、当連結会計年度末は31億91百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は22億30百万円（前期比14億34百万円収入減少）となりました。
主な内訳は、税金等調整前当期純利益が19億66百万円、減価償却費が24億37百万円等の収入、法人税等の16億7百万円の支払いです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は60億10百万円（同36億2百万円支出増加）となりました。
主な内訳は、有形固定資産の取得による支出60億29百万円です。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は5億28百万円（前期は30百万円の支出）となりました。
主な内訳は、有利子負債の新規借入・返済等による10億80百万円の収入、配当金の支払4億66百万円等です。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりです。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	前年同期比 (%)
高純度薬品(百万円)	24,240	102.2
運輸(百万円)	-	-
メディカル(百万円)	-	-
コスメティック(百万円)	-	-
報告セグメント計(百万円)	24,240	102.2
その他(百万円)	47	1,652.7
合計(百万円)	24,288	102.4

- (注) 1. 金額は販売価格によっています。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれていません。

(2) 商品仕入実績

当連結会計年度の商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりです。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	前年同期比 (%)
高純度薬品(百万円)	919	108.6
運輸(百万円)	49	84.3
メディカル(百万円)	-	-
コスメティック(百万円)	23	60.2
報告セグメント計(百万円)	992	105.1
その他(百万円)	96	90.1
合計(百万円)	1,088	103.6

- (注) 1. 金額は仕入価格によっています。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれていません。

(3) 受注状況

主として見込み生産を行っているため、該当事項はありません。

(4) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりです。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	前年同期比 (%)
高純度薬品		
表面処理(百万円)	2,022	128.2
フロン(百万円)	1,581	106.0
半導体・液晶関連 (百万円)	12,559	106.4
半導体装置関連 (百万円)	870	90.9
電池(百万円)	3,322	81.9
反応触媒(百万円)	824	82.8
土壌改良剤(百万円)	30	71.9
その他(百万円)	1,897	108.3
小計(百万円)	23,109	101.9
商品(百万円)	1,007	105.4
合計(百万円)	24,117	102.0
運輸(百万円)	4,677	109.4
メディカル(百万円)	-	-
コスメティック(百万円)	222	218.5
報告セグメント計(百万円)	29,017	103.6
その他(百万円)	254	82.3
合計(百万円)	29,271	103.4

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しています。

2. 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績および当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりです。

相手先	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)		当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
丸善薬品産業株式会社	6,263	22.1	7,378	25.2

3. 上記の金額には、消費税等は含まれていません。

3 【対処すべき課題】

時代の変化を敏感に感じ取る感性、スピーディーな意思決定や柔軟な発想をもって経営を続けるために、次の課題に取り組み、さらなるグループ企業価値の向上を目指します。

(1) グローバル化への対応

主力事業である半導体・液晶用高純度薬液および電池材料分野においては、顧客製品生産拠点の海外移転が進んだことなどにより、当社の事業分野においても高品質製品を安定的に供給できる技術的優位性に加え、国際的な競争力の強化が求められていることから、当社は、海外マーケットでの営業力強化に加え、高い技術力を生かした主力製品の製造原価低減に取り組むことで、今後さらに進む市場のグローバル化に対応した施策を実施し、トップサプライヤーとしての地位を堅持するよう努めます。

(2) 安定供給体制の維持、強化

当社製品は世界的に高いシェアを保有しており、今後も持続的な成長が見込まれることから、福岡県北九州市に新たな製造拠点の設置を決定し、半導体用高純度薬液を安定供給する体制をさらに強化することとしました。加えて、昨年発生した東日本大震災のような自然災害を教訓とし、近畿圏での災害、事故やトラブル発生時においても安定供給を継続できるように、既に稼働しているシンガポール工場に加え、新設する北九州工場を活用し、さらなる安定供給体制の構築に努めます。

また、多極分散化推進による効率性低下を防ぐために、効率的な人員配置、生産工程の見直しなどを実施し、効率的な多極生産体制の構築に努めます。

(3) 新規事業の収益力強化

当社グループは、主力事業の成長拡大とともに新規事業への参入を図り、現在収益力の強化、多角化に取り組んでいます。具体的には、メディカル事業、コスメティック事業、エネルギーマネジメント事業、ムーンライト事業の4つの事業に取り組み、無機化学薬品企業からの飛躍を遂げるべく挑戦を続けています。それぞれの事業は、従来のビジネスモデルと異なり、収益体制の確立や事業進出に時間を要していますが、新たな事業領域を開拓することで次世代のステラケミファを担う事業にするべく、さらにスピードをもって取り組んでまいります。

4 【事業等のリスク】

当社グループの事業その他に関するリスクについて、投資家の判断に重要な影響を及ぼす可能性があると考えられる主な事項を以下に記載しています。必ずしもリスク要因に該当しない事項についても、投資判断上重要であると考えられる事項については、積極的な情報開示の観点から以下に開示します。なお、当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識したうえで、発生の回避および発生した場合の対応に努める所存です。

本項においては、将来に関する事項が含まれていますが、当該事項は現時点において判断したものです。また、以下の記載事項は、当社の事業等に関するリスクを全て網羅したものではないことにご留意ください。

特定事業への高い依存について

当社グループの売上高において、高純度薬品事業の半導体・液晶関連の占める割合が高く(42.9%)、得意先である電子・電気・通信機器業界の半導体需要ならびに設備投資動向等が当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

原材料の調達リスクについて

当社グループの原材料等の一部は、中国等に在る特定の供給源に依存しており、その供給が逼迫した場合や、供給が中断した場合には、原材料等の価格が上昇したり、製造に遅れが生じることにより、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

新規事業リスクについて

当社グループは、メディカル事業を含む新規事業を順次立ち上げておりますが、事業開始当初は、費用が収益に先行して発生する場合があります。また、その後の事業環境の変化等様々な要因により、これらの事業が計画どおりに進捗しない場合もあり、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

研究開発リスクについて

当社グループは、広範囲にわたる顧客ニーズに応え、企業の持続的成長を支えるため、各事業において、長期的な視点で継続的に資源を投入し、既存製品の改良や、新規製品の開発など研究開発活動を行っています。しかし、これらの研究開発の結果が目標と大きく乖離し、期待どおりの成果が得られない場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

海外活動リスクについて

当社グループは、フッ化物製造事業を中心に、シンガポール、中国、韓国に事業展開していますが、各国において以下のようなリスクがあります。そのため、これらの事象が発生した場合は、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

- a) 予期しえない法律・規制・不利な影響を及ぼす租税制度の変更
- b) 不利な政治的要因の発生
- c) テロ、戦争等による社会的混乱

災害や事故の発生について

当社グループは、生産活動の中断により生じる影響を最小限に抑えるため、日常的な製造設備の保守点検、安全防災設備・機器の導入、安全防災訓練やマニュアルづくり等、安全確保に努めていますが、突発的な災害発生や不慮の事故発生により、生産活動が停止した場合、直ちに代替生産できない製品もあり、業績に影響を及ぼす可能性があります。

法的規制リスクについて

当社グループは、主力事業として化学物質を扱っているため、環境に関する法律や、各種業法にかかる許認可、届出、登録等の法規制を受けています。また、一部製品は、輸出の際に「外国為替及び外国貿易法」等、安全保障貿易管理制度に基づく規制を受けています。これらの法令の改定は、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

訴訟リスクについて

当社グループは、国内外の法令順守に努めていますが、広範な事業活動を行う中、訴訟、その他の法律的手続の対象となるリスクがあり、重要な訴訟等の提起を受けた場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

製造物責任リスクについて

当社グループでは、製品の特性に応じた最適な品質の確保に全力を挙げて取り組んでいますが、予期せぬ事態により品質問題が発生した場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

知的財産権侵害リスクについて

当社グループは、独自に開発した技術等について、特許権その他の知的財産権を取得するなど保護に努めていますが、第三者による技術の不正流用を防止できない可能性があり、また他社の保有する知的財産権の使用を必要とする場合に、相手方と交渉が成立しない場合など、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6【研究開発活動】

当社グループにおいては、主に高純度薬品事業およびメディカル事業において研究開発活動を行っています。研究開発活動の基本方針はフッ化物業界という特異な分野でありながら、多様化、高度化し、広範囲にわたる顧客ニーズに応える製品を研究開発し提供することです。

この目的達成のため次の事項を主眼として開発のスピードアップを図り、顧客ニーズ、時期に合致するよう努力しています。

- (1) 積極的な研究開発姿勢
- (2) 高純度製品の開発
- (3) 高品質製品の開発
- (4) 機能性・高付加価値製品の開発
- (5) 顧客ニーズに合致した製品の開発
- (6) 低コスト製品の開発
- (7) 高度先進技術への対応

研究開発スタッフは、グループ全員で40名にのぼり、これは総従業員の約5%に当たります。

当連結会計年度における各セグメント別の主な研究内容および研究開発費は次のとおりです。なお、当連結会計年度の研究開発費の総額は11億4百万円です。

(1)高純度薬品

主として半導体薬液、半導体装置関連分野、電池関連分野を中心とした研究開発活動を行っているほか、最近では太陽電池用洗浄液の開発、樹脂の表面処理で耐薬品性、表面特性および光学特性などの機能性を向上させた材料や次世代の電池やキャパシター用材料として自動車への搭載が期待されているイオン液体の開発に取り組み成果を上げています。研究テーマ毎にグループを形成して研究開発活動に従事しています。

当連結会計年度における研究開発費の総額（人件費を含む）は4億68百万円です。

(2)メディカル

医薬への展開として、副作用の少ないがん治療法として脚光を浴びているホウ素中性子捕捉療法（BNCT）で用いられる治療薬の開発に積極的に取り組んでいます。

当連結会計年度における研究開発費の総額（人件費を含む）は6億26百万円です。

なお、これらの研究開発活動の中には、産学官連携プロジェクトで取り組んでいるものがあり、各大学と緊密に連携して最先端の研究開発活動を行っています。この中でもグループ企業であるステラファーマ株式会社が平成20年度「ST委託開発事業に採択された課題「ホウ素中性子捕捉療法用ホウ素薬剤」については、平成24年度も継続して事業化に向けた活動を推進しています。

さらに本年度、経済産業省「イノベーション拠点立地推進事業（先端技術実証・評価設備費等補助金）」において、「ホウ素薬剤の実証・評価イノベーション拠点 - 癌ホウ素中性子捕捉療法・BNCTの実現」が採択されました。

産学官連携プロジェクト

東北大学	半導体用高純度薬液、次世代ディスプレイ用薬液
大阪府立大学	「ホウ素中性子捕捉療法用ホウ素薬剤」 （平成20年度「ST委託開発事業採択課題」）

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されています。重要な会計方針及び見積りについては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」をご参照ください。

(2) 当連結会計年度の経営成績の分析

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災の影響を大きく受けたものの、緩やかながら回復基調となっており、しかしながら、欧州金融危機や急激な為替の変動、原油価格高騰などの影響もあり、依然として先行きに不透明感が続いています。

このような環境のもと、当社グループは、国内外の情報通信産業を中心に、顧客のニーズに基づいた多種多様なフッ化物製品の供給を行うとともに、特殊貨物輸送で培った独自のノウハウに基づいた化学品の物流を担う事業展開を行ってきました。各項目別の分析は次のとおりです。

[売上高]

売上高は、292億71百万円（前期比3.4%増）となりました。

高純度薬品事業におきましては、半導体・液晶部門では半導体市場の拡大を背景に半導体関連製品の輸出が増加したことにより、125億59百万円（前期比6.4%増）、電池部門では海外販売（主に中国）の減少等により、33億22百万円（同18.1%減）、高純度薬品事業全体での売上高は、241億17百万円（同2.0%増）となりました。

運輸事業におきましては、運輸収入、倉庫関連収入の売上高が期を通じて好調に推移した結果、売上高は46億77百万円（同9.4%増）となりました。

コスメティック事業におきましては、インターネット販売が順調に推移した結果、売上高は2億22百万円（同118.5%増）となりました。

その他事業におきましては、売上高は2億54百万円（同17.7%減）となりました。

[営業利益]

売上原価は、原材料価格の上昇の影響により224億42百万円（同8.4%増）となり、売上総利益は68億29百万円（同10.4%減）となりました。売上総利益率は前連結会計年度の26.9%から23.3%に低下しました。

販売費及び一般管理費は、会社更生手続き開始の申立てを行ったエルピーダメモリ株式会社に対する債権について、貸倒引当金を計上等の影響により44億22百万円（同6.8%増）となりました。

以上の結果、営業利益は、24億6百万円（同30.9%減）となりました。

[経常利益]

営業外損益において、主な収益ではデリバティブ評価益1億3百万円および持分法による投資利益19百万円、主な費用では支払利息1億43百万円および為替差損20百万円を計上しました。

以上の結果、経常利益は、24億56百万円（同21.9%減）となりました。

[当期純利益]

特別損益において、主な利益では土地等の固定資産売却益95百万円、主な損失では減損損失5億8百万円を計上しました。その結果、当期純利益は9億43百万円（同48.0%減）となりました。

(3) 財政状態

当連結会計年度末の総資産は402億円となり、前連結会計年度末に比べ4億83百万円増加しました。

主な要因は、現金及び預金の減少、有形固定資産の増加によるものです。

当連結会計年度の負債合計は、212億23百万円となり、前連結会計年度末に比べて1億21百万円増加しました。主な要因は、有利子負債の増加、未払法人税等の減少によるものです。

当連結会計年度の純資産合計は、189億77百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億62百万円増加しました。主な要因は、利益剰余金の増加によるものです。

(4) キャッシュ・フロー

当連結会計年度におけるキャッシュ・フローは、以下のとおりです。

営業活動によるキャッシュ・フロー：22億30百万円収入（前期比14億34百万円収入減少）

投資活動によるキャッシュ・フロー：60億10百万円支出（同36億2百万円支出増加）

財務活動によるキャッシュ・フロー：5億28百万円収入（前期は30百万円の支出）

営業活動によるキャッシュ・フローの主な内訳は、税金等調整前当期純利益19億66百万円、減価償却費24億37百万円、法人税等の支払額16億7百万円です。

投資活動によるキャッシュ・フローの主な内訳は、有形固定資産の取得による60億29百万円の支出です。

財務活動によるキャッシュ・フローの主な内訳は、有利子負債の新規借入・返済等による10億80百万円の収入、配当金の支払による4億66百万円の支出です。

これらの活動の結果、当連結会計年度末の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末の64億26百万円から32億35百万円減少し、31億91百万円となりました。

（キャッシュ・フローの指標）

	第66期 平成21年3月期	第67期 平成22年3月期	第68期 平成23年3月期	第69期 平成24年3月期
自己資本比率（％）	41.2	47.0	46.1	46.5
時価ベースの自己資本比率（％）	61.1	133.1	101.4	60.6
キャッシュ・フロー対有利子負債比率（年）	4.3	2.2	3.7	6.5
インタレスト・カバレッジ・レシオ（倍）	17.7	29.4	24.7	20.9

自己資本比率：自己資本 / 総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額 / 総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債 / 営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー / 利払い

（注）1．各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により計算しています。

2．株式時価総額は、期末株価終値 × 期末発行済株式数（自己株式を除く）により計算しています。

3．営業キャッシュ・フローは連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しています。有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としています。また、利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しています。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資状況につきましては、連結グループ総額で63億14百万円（無形固定資産を含む。）となっています。また、各セグメントの設備投資については以下のとおりです。

(1) 高純度薬品

当連結会計年度では、リチウム電解質製造設備増設など、生産安定化および高純度薬品の増産を目的として56億41百万円の設備投資を行いました。

(2) 運輸

当連結会計年度では、輸送力の増強および安定化を目的として3億38百万円の設備投資を行いました。

(3) メディカル

当連結会計年度では、ホウ素中性子捕捉療法関連で3億27百万円の設備投資を行いました。

(4) コスメティック

当連結会計年度において特記すべき設備投資はありません。

(5) その他

当連結会計年度において特記すべき設備投資はありません。

なお、当連結会計年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

2【主要な設備の状況】

主要な設備は、以下のとおりです。

(1) 提出会社

(平成24年3月31日現在)

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					合計	従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他		
三宝工場 (堺市堺区)	高純度薬品	生産設備 物流、保管設 備	1,895	1,191	2,356 (46,446)	-	89	5,531	83 (7)
泉工場 (大阪府泉大津市)	"	生産設備	769	2,513	214 (24,838)	-	24	3,521	93 (9)
本社 (大阪市中央区)	"	統括管理 販売業務施設	68	3	- (-)	-	79	152	39 (2)
営業部(東京) (東京都中央区)	"	販売業務施設	-	-	- (-)	-	0	0	8 (1)
研究部(三宝) (堺市堺区)	"	研究施設	23	1	- (-)	-	7	32	10 (1)
研究部(泉) (大阪府泉大津市)	"	研究施設	575	191	- (-)	-	9	777	20 (11)
厚生施設その他 (堺市堺区他)	"	寮、厚生施設	17	-	9 (128)	-	0	26	- (-)

(2) 国内子会社

(平成24年3月31日現在)

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員 数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	土地 (面積㎡)	リース資 産	その他	合計	
ブルーエクスプレ ス㈱	本社 (堺市堺区)	高純度薬品 運輸	管理施設 運送・保 管設備 賃貸資産 販売業務 施設	373	247	941 (26,285)	8	377	1,948	119 (10)
"	関東営業所 (千葉県袖ヶ浦市)	運輸	運送・保 管設備 賃貸資産	126	25	508 (10,929)	-	5	666	34 (1)
"	横浜営業所 (川崎市川崎区)	"	"	724	96	1,440 (15,380)	-	27	2,289	46 (3)

(3) 在外子会社

(平成24年3月31日現在)

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員 数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	土地 (面積㎡)	リース資 産	その他	合計	
STELLA CHEMIFA SINGAPORE PTE LTD	シンガポール工場 (シンガポール共 和国)	高純度薬品	管理施設 生産設備	833	576	- (-)	-	97	1,507	66 (-)
浙江瑞星フッ化 工業有限公司	中国工場 (中国浙江省)	高純度薬品	管理施設 生産設備	184	193	- (-)	-	7	385	72 (4)

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具及び備品であり、建設仮勘定は含んでいません。

2. 従業員数の()内は臨時従業員数であり外書をしています。
3. 提出会社のうち三宝工場の設備は、一部をブルーエクスプレス㈱に賃貸しています。
4. ブルーエクスプレス㈱のうち本社の設備は、一部を提出会社等に賃貸しています。
5. 上記のほか、リース契約による主な賃借設備は次のとおりです。

(平成24年3月31日現在)

会社名	セグメントの名称	設備の名称	リース期間	年間リース料 (百万円)	リース契約残 高(百万円)
ブルーエクスプレス㈱	運輸	タンクローリー等	平成16年10月 ~平成24年11月	51	39

6. その他の賃借設備は次のとおりです。

(平成24年3月31日現在)

会社名	セグメントの名称	賃借設備の名称	面積(㎡)	年間賃借料(百万円)
STELLA CHEMIFA SINGAPORE PTE LTD	高純度薬品	シンガポール工場 土地	25,000	12

3 【設備の新設、除却等の計画】

該当はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成24年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年6月18日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	12,300,000	12,300,000	東京証券取引所 大阪証券取引所 (各市場第一部)	単元株式数 100株
計	12,300,000	12,300,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高(千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額(百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成12年10月18日 (注)	600	12,300	1,722	3,180	1,668	3,288

(注)一般募集(ブックビルディング方式による募集)

発行価格	5,926円
引受価額	5,651円
発行価額	5,651円
資本組入額	2,870円

(6)【所有者別状況】

(平成24年3月31日現在)

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状 況(株)
	政府およ び地方公 共同体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	29	42	70	86	3	9,002	9,232	-
所有株式数 (単元)	-	19,850	1,879	6,672	18,931	304	75,326	122,962	3,800
所有株式数の 割合(%)	-	16.15	1.53	5.43	15.40	0.25	61.25	100.00	-

(注)自己株式569株は、「個人その他」に5単元および「単元未満株式の状況」に69株を含めて記載しています。

(7)【大株主の状況】

(平成24年3月31日現在)

氏名または名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
深田 純子	堺市西区	1,504	12.23
ゴールドマンサックスアンドカンパニーレギュラーアカウント (常任代理人ゴールドマン・サックス証券株式会社)	200 WEST STREET NEW YORK, NY, USA (東京都港区六本木6丁目10番1号 六本木ヒルズ森タワー)	602	4.90
橋本 亜希	大阪市中央区	518	4.22
深田 ダニエル颯	兵庫県芦屋市	503	4.09
橋本 信子	堺市西区	367	2.99
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	346	2.82
深田 麻実	兵庫県芦屋市	324	2.64
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(住友信託退給口)	東京都中央区晴海1-8-11	324	2.63
財団法人黒潮生物研究財団	高知県幡多郡大月町大字西泊560イ	300	2.44
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	258	2.10
計	-	5,050	41.06

(注)1.「株式総数に対する所有株式数の割合」は、小数点第3位を四捨五入しています。

2. アライアンス・バーンスタイン株式会社から、平成23年10月19日付の大量保有報告書の写しの送付があり、平成23年10月14日現在で518千株を保有している旨の報告を受けていますが、当社として期末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めていません。

なお、アライアンス・バーンスタイン株式会社的大量保有報告書の写しの内容は以下のとおりです。

大量保有者	アライアンス・バーンスタイン株式会社
住所	東京都千代田区丸の内1丁目8番3号
保有株券等の数	株式 518,600株
株券等保有割合	4.22%

(8)【議決権の状況】

【発行済株式】

(平成24年3月31日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 12,295,700	122,957	単元株式数100株
単元未満株式	普通株式 3,800	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	12,300,000	-	-
総株主の議決権	-	122,957	-

【自己株式等】

(平成24年3月31日現在)

所有者の氏名または名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
ステラケミファ株式会社	大阪市中央区 淡路町三丁目 6番3号	500	-	500	0.00
計	-	500	-	500	0.00

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

(10) 【従業員株式所有制度の内容】

従業員株式所有制度の概要

当社は、平成24年2月15日の取締役会において、従業員の新しい福利厚生サービスとして自社の株式を給付し、当社の株価や業績との連動性をより高め、経済的な効果を株主の皆様と共有することにより、株価および業績向上への従業員の意欲や士気を高めることを目的として、「株式給付信託（J-ESOP）」（以下、「本制度」）を導入しています。

本制度は、予め当社が定めた株式給付規程に基づき、当社の従業員が退職した場合に当社株式を給付する仕組みです。

当社は、従業員に勤続や成果に応じてポイントを付与し、従業員の退職時等に累積したポイントに相当する当社株式を給付します。退職者等に対し給付する株式については、あらかじめ信託設定した金銭により将来分も含め取得し、信託財産として分別管理するものとします。

本制度の導入により、従業員の勤労意欲や株価への関心が高まるほか、優秀な人材の確保にも寄与することが期待されます。

従業員に取得させる予定の株式の総額

220,000,000円

当該従業員株式所有制度による受益権その他の権利を受けることができる者の範囲
 当社の定める規程に基づき株式給付を受ける権利を取得した者

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	104	286,295
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれていません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (-)	-	-	-	-
保有自己株式数	569	-	569	-

(注) 1. 当期間における処理自己株式には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の売渡による株式は含まれていません。

2. 当期間における保有自己株式数には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りおよび売渡による株式は含まれていません。

3【配当政策】

当社は、財務状況、利益水準等を総合的に勘案したうえで、安定的かつ継続的に配当を行うことが、経営上の重要な課題であると認識しています。内部留保金は、設備投資、研究開発投資などに充当し、今後の事業展開に積極的に活用します。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としています。

これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当、中間配当ともに取締役会です。

当事業年度の配当については、上記方針に基づき当期は1株当たり38円の配当（うち中間配当17円）を実施することを決定しました。この結果、当事業年度の配当性向は142.2%となりました。

当社は、「会社法第459条第1項の規定に基づき、取締役会の決議をもって剰余金の配当等を行うことができる。」旨定款に定めています。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりです。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成23年10月26日 取締役会決議	209	17
平成24年5月15日 取締役会決議	258	21

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次 決算年月	第65期 平成20年3月	第66期 平成21年3月	第67期 平成22年3月	第68期 平成23年3月	第69期 平成24年3月
最高(円)	4,080	2,980	5,290	4,070	3,340
最低(円)	2,000	859	1,780	2,435	1,950

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものです。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年10月	11月	12月	平成24年1月	2月	3月
最高(円)	2,349	2,383	2,529	2,380	2,290	2,207
最低(円)	1,950	2,090	2,252	2,132	2,170	1,965

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものです。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役	会長兼社長	深田 純子	昭和21年1月4日生	昭和62年1月 当社入社 昭和63年6月 当社取締役 平成6年6月 当社代表取締役社長 平成16年6月 当社代表取締役会長 平成19年9月 当社代表取締役会長兼社長 (現任) 平成19年10月 ブルーエクスプレス株式会社 代表取締役会長(現任) 平成22年4月 コスメステラ株式会社 代表取締役社長(現任)	(注)2	1,504
取締役	常務執行役員 特命事項担当	菊山 裕久	昭和24年7月1日生	昭和52年3月 当社入社 平成8年6月 当社取締役研究部長 平成15年6月 当社常務取締役 (研究開発担当) 平成20年5月 当社取締役常務執行役員 (生産本部長) 平成20年7月 当社取締役常務執行役員 (特命事項担当)(現任) 平成21年10月 アライズ・コーポレート株式会 社代表取締役社長(現任)	(注)2	65
取締役	常務執行役員 営業統括	藪 和光	昭和34年1月20日生	昭和56年4月 当社入社 平成15年6月 当社取締役営業部長 平成19年9月 当社取締役常務執行役員 (営業部長) 平成20年5月 当社取締役常務執行役員 (営業本部長) 平成22年4月 当社取締役常務執行役員 (営業統括)(現任)	(注)2	18
取締役	常務執行役員 生産統括	坂 喜代憲	昭和34年3月30日生	昭和57年4月 当社入社 平成15年6月 当社取締役 (泉工場兼三宝工場長) 平成16年11月 当社取締役退任 平成20年4月 ブルーエクスプレス株式会 社代表取締役社長(現任) 平成21年7月 当社常務執行役員 (生産本部長) 平成22年6月 当社取締役常務執行役員 (生産統括)(現任)	(注)2	17
取締役	執行役員 総務部長	高野 順	昭和36年6月28日生	昭和60年4月 当社入社 平成15年6月 当社取締役副社長 平成16年6月 当社取締役社長 平成17年11月 当社取締役(技術担当) 平成18年1月 当社取締役 (技術担当兼品質管理部長) 平成19年3月 当社取締役退任 平成19年4月 当社執行役員(生産管理担当兼品 質管理部長) 平成22年6月 当社取締役執行役員総務部長 (現任)	(注)2	25

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	執行役員研究 兼開発部長	宮下 雅之	昭和36年6月24日生	昭和60年4月 当社入社 平成13年2月 当社三宝工場長 平成15年6月 当社取締役 平成17年4月 当社取締役研究部長 平成17年12月 当社取締役開発部長 平成19年3月 当社取締役退任 平成19年4月 当社執行役員開発部長 平成22年6月 当社取締役執行役員 研究兼開発部長(現任)	(注)2	15
常勤監査役		小山田 文吾	昭和33年9月4日生	昭和57年4月 三菱油化株式会社入社 平成14年8月 アイリスオーヤマ株式会社入社 平成18年5月 アイリスオーヤマヨーロッパ Managing Director 平成23年11月 アイリスオーヤマ株式会社退社 平成24年6月 当社社外監査役(現任)	(注)3	-
監査役		岡野 勲	昭和17年4月4日生	平成12年8月 税理士登録 岡野税理士事務所所長(現任) 平成20年6月 当社社外監査役(現任)	(注)3	-
監査役		西村 勇作	昭和45年1月5日生	平成11年4月 弁護士登録 梅ヶ枝中央法律事務所入所 (現任) 平成18年6月 株式会社バイオマーカーサイエン ス社外監査役(現任) 平成24年6月 当社社外監査役(現任)	(注)3	-
計						1,647

- (注) 1. 監査役 小山田 文吾、岡野 勲、西村 勇作の3氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。
2. 平成24年6月15日に選任後1年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時株主総会の終結の時までです。
3. 平成24年6月15日に選任後4年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時株主総会の終結の時までです。
4. 当社では、スピーディーな経営意思決定と経営責任の明確化を図るため、執行役員制度を導入しています。執行役員は5名で、常務(特命事項担当) 菊山 裕久、常務(営業統括) 藪 和光、常務(生産統括) 坂 喜代憲、総務部長 高野 順、研究兼開発部長 宮下 雅之で構成されています。

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

(コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方)

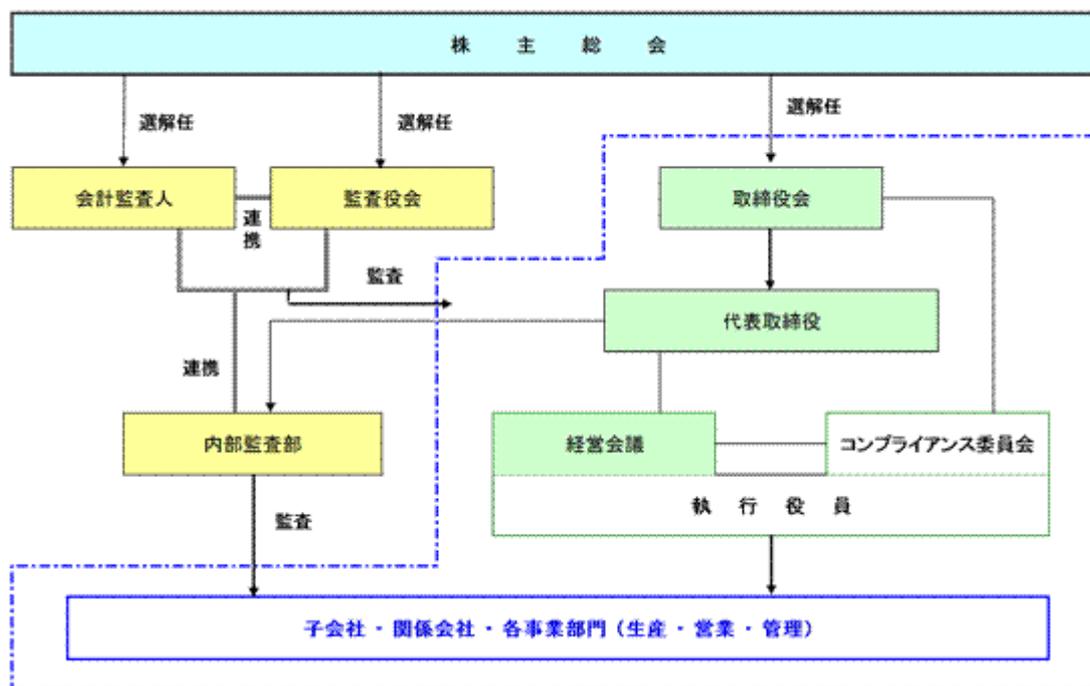
法令遵守に基づく企業倫理の重要性を認識するとともに、変動する企業環境に対応した迅速な経営意思決定と、経営の健全性向上をはかることによって、企業価値を継続して高めていくことを、経営上の最重点課題のひとつとして位置づけています。その実現のために、株主の皆様をはじめ、取引先、地域社会、従業員等の利害関係者との良好な関係を築くとともに、株主総会、取締役会、監査役会、会計監査人など、法律上の機能制度を一層強化・改善・整備しながら、コーポレート・ガバナンスを充実させていきたいと考えています。

また、株主・投資家の皆様へは、迅速かつ正確な情報開示に努めるとともに、幅広い情報公開により、経営の透明性を高めてまいります。

(コーポレート・ガバナンスに関する実施状況)

(1)会社の経営上の意思決定、執行および監督に係る経営管理組織その他のコーポレート・ガバナンス体制の状況

平成24年6月1日現在の当社の経営組織およびコーポレート・ガバナンス体制の概要は次のとおりです。



委員会等設置会社であるか監査役制度採用会社であるかの別
監査役制度を採用しています。

取締役の人数および社外取締役の選任状況

取締役の人数は6名であり、社外取締役は選任していません。

(現在の体制を採用している理由)

当社の規模から見て、社外取締役に期待される役割である社外からの経営の監視機能は、独立性の高い社外監査役の監査により果たされており、現状の体制で充分機能していると考えているためです。

監査役会の設置の有無および監査役の人数、社外監査役の選任状況

監査役会を設置しており、監査役は3名で構成され全員が社外監査役です。うち、1名は常勤監査役として常時執務をしています。

(財務および会計に関する相当程度の知見の有無について)

当社の監査役3名は、海外勤務経験に基づくグローバルな視点を有する者や弁護士および税理士資格保有者で構成され、各々財務および会計に関する相当程度の知見を有しています。

業務執行・監視の仕組み

取締役会は定例的ならびに臨時に開催され重要案件が決議されます。いずれの取締役会にも監査役は出席し、客観的立場から取締役の職務執行を監視しています。

また、執行役員等幹部社員が出席する経営会議も毎月開催され、取締役会が定めた経営方針に基づき、新製品の開発、大型設備投資、経営組織の改編など重要な経営課題に対し、迅速に対応しています。

内部統制の仕組み

(監査役会)

監査役会は原則として月1回の開催としていますが、必要に応じて臨時監査役会を開催しています。監査役会で策定された監査方針および監査計画に基づいて内部監査部および会計監査人との連携を強化し、情報の共有を図り適切な監査体制の構築に努め、取締役の職務執行を監査しています。監査役の主な活動としては、取締役会および他の主要な会合に出席しているほか、当初の監査計画の役割分担に基づき、それぞれが重要決裁書類閲覧や、子会社調査等業務を遂行しています。

(内部監査部および内部統制室)

内部統制のため当社に内部監査部（2名）および主たる子会社であるブルーエクスプレス株式会社に内部統制室（3名）を設置し、社内業務はもちろんのことグループ経営の視点からグループ監査会議の開催を実施しています。また、監査役から求められるときは業務監査をサポートしています。定期的に監査役および監査法人と会合を持つことにより連携を図り、内部統制が十分に機能するよう務めています。

弁護士・会計監査人の状況

法律事務所と顧問契約を締結し、必要に応じて法律的側面から見た経営について、適切なアドバイスを受けています。

また、会計監査人である新日本有限責任監査法人からは、会計監査を受けています。

業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人および継続監査年数は以下のとおりです。

公認会計士の氏名等		所属する監査法人
指定有限責任社員	松村 豊	新日本有限責任監査法人
業務執行社員	平岡 義則	

(注) 継続監査年数については、全員7年以内であるため、記載を省略しています。

監査業務に係る補助者の構成は、監査法人の選定基準に基づき決定されています。具体的には、公認会計士4名およびその他4名を主たる構成員としています。

(2) 社外監査役

当社の社外監査役は3名であり、各人と当社グループとの間には、人的関係、資本的関係または取引関係その他の利害関係はありません。

当社は、社外監査役の独立性については証券取引所が定める独立性判断基準等を参照し、一般株主と利益相反が生じるおそれがないよう留意するほか、単に形式的な独立性のみを確保するのではなく、経営に関する豊富な経験・見識等を兼ね備え、客観的な視点で経営監視機能を担える人材を選任することが重要であると考えています。なお、当社は社外監査役3名全員を証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し届出しています。

当社は社外取締役を選任していませんが、現時点の当社規模を勘案し、業務と組織運営に精通している少人数の取締役が、環境変化に即時対応すべく意思決定・業務執行を行うことが経営上有効であると考えており、また社外監査役による充実した監査役監査体制が、当社のコーポレート・ガバナンス体制の強化に資すると考えていることから、現時点においては社外取締役の導入は検討していません。

(3) 取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨定款に定めています。

(4) 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めています。また、取締役の選任については、累積投票によらないものとする旨定款に定めています。

(5) 剰余金の配当等の決定機関

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項について、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議によって定める旨定款に定めています。これは、剰余金の配当等を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものです。

(6) 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めています。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものです。

(7)役員報酬等

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額および対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)			対象となる 役員の員数(人)
		基本報酬	賞与	退職慰労金	
取締役	256	226	-	30	6
社外役員	22	21	-	1	3

報酬等の総額が1億円以上である者の報酬等の総額等

氏名	役員区分	会社区分	報酬等の種類別の総額(百万円)			報酬等の総額 (百万円)
			基本報酬	賞与	退職慰労金	
深田 純子	取締役	提出会社	110	-	18	128

役員の報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針の内容および決定方法

当社の役員報酬は、企業価値の増大および中長期の業績向上を図るための優秀な経営者を確保することができる内容とし、基本報酬と業績によって変動する業績連動報酬で構成します。

取締役の報酬は、基本報酬と業績連動報酬により構成され具体的には、下記のとおりです。

- ・基本報酬は、以下の(1)と(2)の金額を合計し、個人別に決定されます。
 - (1)各取締役の経歴・職歴に応じた部分
 - (2)各取締役の職務に応じた部分
- ・業績連動報酬は、連結ベースでの当期純利益や貢献度等の定量的な要素に加え、基本報酬とのバランスを考慮の上、個人別に決定されます。

監査役(社外)の報酬は、基本報酬により構成されています。

(8)株式の保有状況

投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数および貸借対照表計上額の合計額

銘柄数	9個
貸借対照表計上額	40百万円

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額および保有目的
前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)	保有目的
住友信託銀行(株)	61,510	26	安定株主確保のため
関東電化工業(株)	10,000	6	営業目的による保有
(株)りそなホールディングス	10,849	4	安定株主確保のため
ヤスハラケミカル(株)	2,880	2	営業目的による保有
日本金属(株)	1,000	0	営業目的による保有

当事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)	保有目的
三井住友トラストホールディングス(株)	61,510	24	安定株主確保のため
(株)りそなホールディングス	10,849	4	安定株主確保のため
関東電化工業(株)	10,000	3	営業目的による保有
ヤスハラケミカル(株)	2,880	1	営業目的による保有
日本金属(株)	1,000	0	営業目的による保有

(2) 【 監査報酬の内容等】

【 監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	36	-	36	-
連結子会社	-	-	-	-
計	36	-	36	-

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

当社の連結子会社であるSTELLA CHEMIFA SINGAPORE PTE LTDは、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているErnst & Youngに対して監査報酬を支払っています。

(当連結会計年度)

当社の連結子会社であるSTELLA CHEMIFA SINGAPORE PTE LTDは、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているErnst & Youngに対して監査報酬を支払っています。

【 監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【 監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針としましては、監査日数、提出会社の規模・業務の特性等の要素を勘案し決定しています。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表および財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しています。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しています。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の連結財務諸表および事業年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の財務諸表について、新日本有限責任監査法人による監査を受けています。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っています。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、または会計基準等の変更についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しています。

1【連結財務諸表等】
(1)【連結財務諸表】
【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,506	3,241
受取手形及び売掛金	² 6,797	² 6,465
商品及び製品	1,154	1,773
仕掛品	719	953
原材料及び貯蔵品	520	629
繰延税金資産	299	300
その他	331	494
貸倒引当金	70	44
流動資産合計	16,259	13,812
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	14,189	13,997
減価償却累計額	7,862	8,313
建物及び構築物(純額)	6,326	5,684
機械装置及び運搬具	21,567	21,609
減価償却累計額	15,774	16,393
機械装置及び運搬具(純額)	5,792	5,216
土地	5,490	5,470
建設仮勘定	3,270	7,992
その他	4,527	4,989
減価償却累計額	3,724	4,172
その他(純額)	802	817
有形固定資産合計	21,682	25,180
無形固定資産		
のれん	535	-
その他	79	71
無形固定資産合計	614	71
投資その他の資産		
投資有価証券	¹ 460	¹ 438
繰延税金資産	489	420
その他	222	587
貸倒引当金	12	309
投資その他の資産合計	1,160	1,137
固定資産合計	23,457	26,388
資産合計	39,717	40,200

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,737	1,612
短期借入金	2,509	4,186
1年内返済予定の長期借入金	3,504	4,265
未払法人税等	920	248
賞与引当金	290	364
設備関係支払手形	1,478	1,360
その他	1,732	1,903
流動負債合計	12,173	13,941
固定負債		
長期借入金	7,396	5,984
退職給付引当金	724	575
役員退職慰労引当金	421	455
その他	385	265
固定負債合計	8,927	7,281
負債合計	21,101	21,223
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,180	3,180
資本剰余金	3,288	3,288
利益剰余金	12,244	12,720
自己株式	1	1
株主資本合計	18,711	19,187
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3	1
繰延ヘッジ損益	9	18
為替換算調整勘定	395	478
その他の包括利益累計額合計	402	498
少数株主持分	305	288
純資産合計	18,615	18,977
負債純資産合計	39,717	40,200

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
売上高	28,320	29,271
売上原価	7 20,695	7 22,442
売上総利益	7,625	6,829
販売費及び一般管理費	1, 2 4,141	1, 2 4,422
営業利益	3,483	2,406
営業外収益		
受取利息	5	8
受取配当金	1	1
持分法による投資利益	65	19
デリバティブ評価益	-	103
その他	155	109
営業外収益合計	227	242
営業外費用		
支払利息	150	143
為替差損	143	20
デリバティブ評価損	237	-
その他	35	28
営業外費用合計	567	192
経常利益	3,144	2,456
特別利益		
固定資産売却益	3 8	3 95
受取補償金	15	-
特別利益合計	23	95
特別損失		
固定資産廃棄損	4 29	4 76
固定資産売却損	5 0	5 0
投資有価証券評価損	5	-
減損損失	-	6 508
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	12	-
その他	-	0
特別損失合計	47	586
税金等調整前当期純利益	3,119	1,966
法人税、住民税及び事業税	1,421	956
法人税等調整額	154	76
法人税等合計	1,266	1,032
少数株主損益調整前当期純利益	1,852	933
少数株主利益又は少数株主損失()	40	9
当期純利益	1,812	943

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	1,852	933
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9	4
繰延ヘッジ損益	9	8
為替換算調整勘定	126	66
持分法適用会社に対する持分相当額	48	24
その他の包括利益合計	194	104
包括利益	1,658	829
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,649	846
少数株主に係る包括利益	9	17

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	3,180	3,180
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	3,180	3,180
資本剰余金		
当期首残高	3,288	3,288
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	3,288	3,288
利益剰余金		
当期首残高	10,993	12,244
当期変動額		
剰余金の配当	479	467
当期純利益	1,812	943
連結範囲の変動	82	-
当期変動額合計	1,250	475
当期末残高	12,244	12,720
自己株式		
当期首残高	1	1
当期変動額		
自己株式の取得	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	1	1
株主資本合計		
当期首残高	17,461	18,711
当期変動額		
剰余金の配当	479	467
当期純利益	1,812	943
自己株式の取得	0	0
連結範囲の変動	82	-
当期変動額合計	1,250	475
当期末残高	18,711	19,187

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	13	3
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	9	4
当期変動額合計	9	4
当期末残高	3	1
繰延ヘッジ損益		
当期首残高	-	9
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	9	8
当期変動額合計	9	8
当期末残高	9	18
為替換算調整勘定		
当期首残高	252	395
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	142	82
当期変動額合計	142	82
当期末残高	395	478
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	239	402
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	162	96
当期変動額合計	162	96
当期末残高	402	498
少数株主持分		
当期首残高	381	305
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	76	17
当期変動額合計	76	17
当期末残高	305	288
純資産合計		
当期首残高	17,603	18,615
当期変動額		
剰余金の配当	479	467
当期純利益	1,812	943
自己株式の取得	0	0
連結範囲の変動	82	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	238	113
当期変動額合計	1,011	362
当期末残高	18,615	18,977

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	3,119	1,966
減価償却費	2,604	2,437
のれん償却額	151	154
減損損失	-	508
貸倒引当金の増減額（ は減少）	72	271
賞与引当金の増減額（ は減少）	42	74
退職給付引当金の増減額（ は減少）	31	148
役員退職慰労引当金の増減額（ は減少）	83	33
受取利息及び受取配当金	7	10
支払利息	150	143
有形固定資産除売却損益（ は益）	21	19
投資有価証券評価損益（ は益）	5	-
デリバティブ評価損益（ は益）	237	103
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	12	-
持分法による投資損益（ は益）	65	19
為替差損益（ は益）	92	35
売上債権の増減額（ は増加）	1,353	6
たな卸資産の増減額（ は増加）	355	972
仕入債務の増減額（ は減少）	292	123
その他の流動資産の増減額（ は増加）	23	89
その他の流動負債の増減額（ は減少）	28	41
未収消費税等の増減額（ は増加）	2	19
未払消費税等の増減額（ は減少）	2	200
その他	112	39
小計	5,203	3,934
利息及び配当金の受取額	192	10
利息の支払額	148	106
法人税等の支払額又は還付額（ は支払）	1,582	1,607
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,664	2,230
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	80	60
定期預金の払戻による収入	70	90
有形固定資産の取得による支出	2,347	6,029
有形固定資産の売却による収入	21	139
投資有価証券の取得による支出	1	1
その他の支出	83	152
その他の収入	13	3
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,408	6,010

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	438	1,709
長期借入れによる収入	4,090	3,075
長期借入金の返済による支出	3,203	3,704
少数株主への配当金の支払額	-	83
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	478	466
その他	-	1
財務活動によるキャッシュ・フロー	30	528
現金及び現金同等物に係る換算差額	132	15
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	1,093	3,235
現金及び現金同等物の期首残高	5,284	6,426
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	48	-
現金及び現金同等物の期末残高	6,426	3,191

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1. 連結の範囲に関する事項
連結子会社の数 11社
連結子会社名は、ブルーエクスプレス(株)、ブルーオートトラスト(株)、ステラファーマ(株)、コスメドステラ(株)、ステラグリーン(株)、アライズ・コーポレート(株)、STELLA CHEMIFA SINGAPORE PTE LTD、STELLA EXPRESS (SINGAPORE) PTE LTD、浙江瑞星フッ化工業有限公司、星青国際貿易(上海)有限公司、青星国際貨物運輸代理(上海)有限公司です。
なお、前連結会計年度において連結子会社でありましたホルトプラン(株)は清算したため、連結の範囲から除いています。
2. 持分法の適用に関する事項
(1) 持分法適用の関連会社数 1社
当該会社は、フェクト(株)です。
(2) 持分法の適用会社は、決算日が連結決算日と異なっているため、関連会社の事業年度にかかる財務諸表を使用しています。
3. 連結子会社の事業年度等に関する事項
連結子会社のうち、ブルーオートトラスト(株)、ステラファーマ(株)、コスメドステラ(株)、ステラグリーン(株)、STELLA CHEMIFA SINGAPORE PTE LTD、浙江瑞星フッ化工業有限公司、星青国際貿易(上海)有限公司、青星国際貨物運輸代理(上海)有限公司およびSTELLA EXPRESS (SINGAPORE) PTE LTDの決算日は12月31日です。
連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用しています。ただし、連結決算日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っています。
4. 会計処理基準に関する事項
(1) 重要な資産の評価基準および評価方法
有価証券
その他有価証券
時価のあるもの
決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）によっています。
時価のないもの
移動平均法による原価法によっています。
デリバティブ
時価法によっています。
たな卸資産
主として総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しています。
(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法
有形固定資産（リース資産を除く）
機械及び装置
主として定額法によっています。
なお、主な耐用年数は8年です。
その他の有形固定資産
主として定率法によっています。ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備は除く)については、定額法によっています。
なお、主な耐用年数は以下のとおりです。
建物 10～40年
運搬具 2～4年
少額減価償却資産
取得価額が10万円以上20万円未満の資産については、3年均等償却によっています。
無形固定資産（リース資産を除く）
定額法によっています。
なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいています。

リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しています。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引にかかる方法に準じた会計処理によっています。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、当社および国内連結子会社は一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しています。また、在外連結子会社は主として特定の債権について回収不能見込額を計上しています。

賞与引当金

当社および国内連結子会社は、従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額の当連結会計年度負担額を計上しています。

退職給付引当金

当社および国内連結子会社において、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しています。

(追加情報)

当社は、確定拠出年金法の施行に伴い、平成23年6月に適格退職年金制度を廃止するとともに、退職一時金制度の一部について確定拠出年金制度へ移行し、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」(企業会計基準適用指針第1号)を適用しています。本移行に伴う損益に与える影響はありません。

役員退職慰労引当金

当社および国内連結子会社の一部において、役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しています。

(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しています。なお、在外子会社等の資産および負債ならびに収益および費用は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定および少数株主持分に含めて計上しています。

(5) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっています。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...通貨オプション取引

ヘッジ対象...原材料輸入による外貨建買入債務および外貨建予定取引

ヘッジ方針

通貨オプション取引は、輸入仕入にかかる為替変動リスクをヘッジする目的で外貨建予定取引の決済に必要な範囲内で行っています。

ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計と、ヘッジ手段の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計を比較し両者の変動額を基礎にして行っています。

なお、高い有効性があるとみなされる場合については、有効性の評価を省略しています。

(6) のれんの償却方法および償却期間

のれんの償却については、発生原因に応じて20年以内での定額法による償却を行っています。ただし、金額が僅少なもののれんについては一括償却しています。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金および容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっています。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっています。

【表示方法の変更】

(連結損益計算書)

1. 前連結会計年度において、独立掲記していましたが「補助金収入」は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度においては、「営業外収益」の「その他」に含めています。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っています。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「補助金収入」に表示していた73百万円は、「営業外収益」の「その他」として組み替えています。

2. 前連結会計年度において、独立掲記していましたが「法人税の更生、決定等による納付税額又は還付税額」は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度においては、「法人税、住民税及び事業税」に含めています。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っています。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「法人税の更生、決定等による納付税額又は還付税額」に表示していた22百万円は、「法人税、住民税及び事業税」として組み替えています。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更および過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)および「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しています。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

1 関連会社に対するものは、次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
投資有価証券(株式)	398百万円	383百万円

2 連結会計年度末日満期手形

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしています。なお、当連結会計年度の末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が連結会計年度末残高に含まれています。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
受取手形	- 百万円	93百万円

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりです。

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
給料及び手当	495百万円	520百万円
賞与引当金繰入額	45	64
貸倒引当金繰入額	76	337
退職給付費用	14	16
役員退職慰労引当金繰入額	93	33
研究開発費	1,273	1,104

2 一般管理費に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
	1,273百万円	1,104百万円

3 固定資産売却益の内容は次のとおりです。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
土地等	- 百万円	90百万円
車両運搬具	8	5
計	8	95

4 固定資産廃棄損の内容は次のとおりです。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
建物及び構築物	10百万円	30百万円
機械装置及び運搬具	13	39
工具、器具及び備品	4	5
計	29	76

5 固定資産売却損の内容は次のとおりです。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
機械装置及び運搬具	0	0
計	0	0

6 減損損失

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類
長崎県大村市	生産設備等	建物、機械装置等

減損損失の内訳

建物	80百万円
機械装置	42百万円
その他有形固定資産	2百万円
のれん	381百万円
その他無形固定資産	1百万円
計	508百万円

当社グループは原則として、事業用資産については、事業区分を基準として概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最小の単位ごとにグルーピングを行っています。

当連結会計年度において、営業活動から生じる損益が継続してマイナスであり、固定資産帳簿価額を回収できないと判断した資産グループについて、その帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。

なお、当資産グループの回収可能価額は使用価値により算定しています。使用価値は、将来キャッシュ・フローに基づく評価額が現時点においてはマイナスであるため、ゼロと算定しています。

7 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下げ後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれています。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
	134百万円	10百万円

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金:

当期発生額	7百万円
税効果額	3
その他有価証券評価差額金	4

繰延ヘッジ損益:

当期発生額	13
税効果額	4
繰延ヘッジ損益	8

為替換算調整勘定:

当期発生額	66
-------	----

持分法適用会社に対する持分相当額:

当期発生額	24
その他の包括利益合計	104

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

1. 発行済株式の種類および総数ならびに自己株式の種類および株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	12,300,000	-	-	12,300,000
合計	12,300,000	-	-	12,300,000
自己株式				
普通株式	373	92	-	465
合計	373	92	-	465

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加92株は、単元未満株式の買取りによるものです。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成22年5月18日 取締役会	普通株式	270	22	平成22年3月31日	平成22年6月8日
平成22年10月27日 取締役会	普通株式	209	17	平成22年9月30日	平成22年11月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年5月17日 取締役会	普通株式	258	利益剰余金	21	平成23年3月31日	平成23年6月2日

当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

1. 発行済株式の種類および総数ならびに自己株式の種類および株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数（株）	当連結会計年度 増加株式数（株）	当連結会計年度 減少株式数（株）	当連結会計年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	12,300,000	-	-	12,300,000
合計	12,300,000	-	-	12,300,000
自己株式				
普通株式	465	104	-	569
合計	465	104	-	569

（注）普通株式の自己株式の株式数の増加104株は、単元未満株式の買取りによるものです。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年5月17日 取締役会	普通株式	258	21	平成23年3月31日	平成23年6月2日
平成23年10月26日 取締役会	普通株式	209	17	平成23年9月30日	平成23年11月28日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年5月15日 取締役会	普通株式	258	利益剰余金	21	平成24年3月31日	平成24年6月1日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
現金及び預金勘定	6,506百万円	3,241百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	80	50
現金及び現金同等物	6,426	3,191

(リース取引関係)

(借主側)

ファイナンス・リース取引
所有権移転外ファイナンス・リース取引
リース資産の内容

有形固定資産

高純度薬品事業における生産設備(機械装置及び運搬具、その他(工具器具及び備品))です。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりです。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引にかかる方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりです。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

(単位: 百万円)

	前連結会計年度(平成23年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械装置及び運搬具	28	21	6
その他(工具器具及び備品)	176	120	56
合計	205	142	63

(単位: 百万円)

	当連結会計年度(平成24年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械装置及び運搬具	20	17	2
その他(工具器具及び備品)	208	175	33
合計	228	192	35

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しています。

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	59	39
1年超	39	-
合計	98	39

(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しています。

(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
支払リース料	87	51
減価償却費相当額	54	39

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっています。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

(貸主側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引にかかる方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりです。

(1) リース物件の取得価額、減価償却累計額、減損損失累計額及び期末残高

(単位：百万円)

	前連結会計年度(平成23年3月31日)		
	取得価額	減価償却累計額	期末残高
その他(工具器具及び備品)	246	164	82

(単位：百万円)

	当連結会計年度(平成24年3月31日)		
	取得価額	減価償却累計額	期末残高
その他(工具器具及び備品)	79	60	18

(2) 未経過リース料期末残高相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
1年内	79	17
1年超	40	16
合計	120	34

(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高および見積残存価額の残高の合計額が、営業債権の期末残高等に占める割合が低いため、受取利子込み法により算定しています。

(3) 受取リース料および減価償却費

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
受取リース料	96	64
減価償却費	39	22

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものにかかる未経過リース料

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
1年内	25	25
1年超	111	110
合計	137	135

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資計画に照らして必要な資金を主に銀行借入れによって調達しています。デリバティブはリスク回避としてのみ利用しており、投機的な取引は行わない方針です。

(2) 金融商品の内容及びそのリスクならびにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されています。当該リスクに関しては、当社グループの与信管理規程に従い、取引先ごとの期日管理および残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を年度ごとに把握する体制としています。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されていますが、総資産の規模に対して軽微なものであるため、市場価格の変動による損益への影響は限定的です。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが3ヶ月以内の支払期日です。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引にかかる資金調達であり、長期借入金は主に設備投資にかかる資金調達です。大部分の長期借入金について固定金利での利息の支払いを行っており、支払い金利の変動によるリスクの回避を行っています。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限を定めた社内規程に従っており、また、デリバティブの利用にあたっては、信用リスクを軽減するために、格付けの高い金融機関とのみ取引を行っています。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれていません((注2)参照)。

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	6,506	6,506	-
(2) 受取手形及び売掛金	6,797	6,797	-
(3) 投資有価証券 その他有価証券	55	55	-
(4) 支払手形及び買掛金	(1,737)	(1,737)	-
(5) 短期借入金	(2,509)	(2,509)	-
(6) 長期借入金	(10,054)	(10,122)	(67)
(7) デリバティブ取引			
ヘッジ会計が適用されていないもの	(237)	(237)	-
ヘッジ会計が適用されているもの	(16)	(16)	-

負債に計上されているものについては、()で示しています。

当連結会計年度（平成24年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	3,241	3,241	-
(2) 受取手形及び売掛金	6,465	6,465	-
(3) 投資有価証券 其他有価証券	48	48	-
(4) 支払手形及び買掛金	(1,612)	(1,612)	-
(5) 短期借入金	(4,186)	(4,186)	-
(6) 長期借入金	(9,233)	(9,257)	(24)
(7) デリバティブ取引			
ヘッジ会計が適用されていないもの	(133)	(133)	-
ヘッジ会計が適用されているもの	(30)	(30)	-

負債に計上されているものについては、()で示しています。

(注1) 金融商品の時価の算定方法ならびに有価証券およびデリバティブ取引に関する事項

- (1) 現金及び預金ならびに(2) 受取手形及び売掛金
これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。
- (3) 投資有価証券
投資有価証券の時価について、株式は取引所の価格によっています。
なお、有価証券は其他有価証券として保有しており、これに関する事項は、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。
- (4) 支払手形及び買掛金ならびに(5) 短期借入金
これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。
- (6) 長期借入金
長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっています。なお、独立行政法人科学技術振興機構からの借入額1,016百万円については、将来キャッシュフローを合理的に見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(6) 長期借入金」には含めていません。
- (7) デリバティブ取引
これに関する事項は、「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
非上場株式	405	389

上記については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 投資有価証券 其他有価証券」には含めていません。

(注3) 金銭債権および満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	6,492	-	-	-
受取手形及び売掛金	6,797	-	-	-
合計	13,289	-	-	-

当連結会計年度(平成24年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	3,226	-	-	-
受取手形及び売掛金	6,465	-	-	-
合計	9,691	-	-	-

(注4) 長期借入金の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表「借入金等明細表」をご参照下さい。

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	48	42	5
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	48	42	5
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	6	11	5
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	6	11	5
合計		55	54	0

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 405百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めていません。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	1	0	0
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	1	0	0
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	47	50	2
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	47	50	2
合計		48	50	1

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 389百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めていません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

（デリバティブ取引関係）

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

金利関連

前連結会計年度（平成23年3月31日）

区分	取引の種類	契約額等 （百万円）	契約額等のうち 1年超 （百万円）	時価 （百万円）	評価損益 （百万円）
市場取引以外の取引	金利スワップ取引	6,030	6,030	237	237

（注）時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しています。

当連結会計年度（平成24年3月31日）

区分	取引の種類	契約額等 （百万円）	契約額等のうち 1年超 （百万円）	時価 （百万円）	評価損益 （百万円）
市場取引以外の取引	金利スワップ取引	6,030	6,030	133	133

（注）時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しています。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度（平成23年3月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 （百万円）	契約額等のうち 1年超 （百万円）	時価 （百万円）
振当処理	通貨オプション取引 米ドル	原材料輸入による外 貨建買入債務および 外貨建予定取引	3,959	-	16

（注）時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しています。

当連結会計年度（平成24年3月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 （百万円）	契約額等のうち 1年超 （百万円）	時価 （百万円）
振当処理	通貨オプション取引 米ドル	原材料輸入による外 貨建買入債務および 外貨建予定取引	3,326	1,170	30

（注）時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しています。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社グループは退職一時金制度と確定拠出年金制度を併用しています。

当社は、平成23年6月に退職一時金制度の一部について確定拠出年金制度へ移行しました。

当連結会計年度における退職一時金制度から確定拠出年金制度への一部移行に伴う損益に与える影響はありません。

2. 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成23年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成24年3月31日現在)
(1) 退職給付債務	989百万円	575百万円
(2) 年金資産	264百万円	- 百万円
(3) 退職給付引当金(1) + (2)	724百万円	575百万円

3. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
(1) 勤務費用等(純額)	76百万円	74百万円
(2) その他	- 百万円	31百万円
(3) 退職給付費用(1) + (2)	76百万円	105百万円

(注) 「(2)その他」は、確定拠出年金への掛金支払額です。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税	74百万円	25百万円
連結会社間内部利益消去	110	112
棚卸資産評価損	65	65
賞与引当金	115	135
貸倒引当金	2	72
減価償却超過額	75	67
退職給付引当金	294	206
役員退職慰労引当金	171	162
会員権評価損	19	16
繰越欠損金	312	264
その他	82	72
繰延税金資産小計	1,324	1,201
評価性引当額	471	415
繰延税金資産合計	852	786
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	2	-
在外関係会社の留保利益金	43	49
資産除去債務に対応する除去費用	17	16
繰延税金負債合計	63	65
繰延税金資産の純額	788	721

(注) 前連結会計年度および当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれています。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	299百万円	300百万円
固定資産 - 繰延税金資産	489	420

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率 (調整)	法定実効税率と税効果 会計適用後の法人税等 の負担率との間の差異	40.7%
交際費等永久に損金に算入されない項目	が法定実効税率の100 分の5以下であるため	0.9
住民税均等割	注記を省略していま す。	0.8
試験研究費の特別控除等		5.1
持分法利益		0.4
欠損金子会社の未認識税務利益		0.7
連結子会社軽減税率		0.6
評価性引当額の増減		9.7
関係会社の留保利益		0.3
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正		3.7
その他		1.8
税効果会計適用後の法人税等の負担率		52.5

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産および繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」（平成23年法律第114号）および「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」（平成23年法律第117号）が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率の引下げおよび復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産および繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の40.7%から平成24年4月1日に開始する連結会計年度から平成26年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については38.0%に、平成27年4月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異については、35.6%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）は72百万円減少し、法人税等調整額が71百万円、その他有価証券評価差額金が0百万円、繰延ヘッジ損益が0百万円、それぞれ増加しております。

（企業結合等関係）

該当事項はありません。

（資産除去債務関係）

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

1. 当該資産除去債務の概要

工場設備用土地の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等です。

2. 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から20年～35年と見積り、割引率は2.140%～2.875%を使用して資産除去債務の金額を計算しています。

3. 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
期首残高(注)	118百万円	121百万円
時の経過による調整額	3百万円	3百万円
為替変動による調整額	-百万円	5百万円
期末残高	121百万円	119百万円

(注) 前連結会計年度の「期首残高」は「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）および「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用したことによる期首時点における残高です。

（賃貸等不動産関係）

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものです。

当社は、取締役会、経営会議において、当社グループ全体を包括的に把握し、各子会社ごとの報告を基礎とした各事業別の戦略を立案し、事業活動を展開しています。

したがって、当社は、事業別のセグメントから構成されており、「高純度薬品事業」、「運輸事業」、「メディカル事業」および「コスメティック事業」の4つを報告セグメントとしています。

「高純度薬品事業」は、高純度薬品の製造、販売を行っています。「運輸事業」は、化学薬品等の輸送、保管および通関業務などを行っています。「メディカル事業」は、医薬品の研究を行っています。「コスメティック事業」は、化粧品販売を行っています。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一です。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値です。

セグメント間の内部収益および振替高は市場実勢価格に基づいています。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

(単位: 百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	高純度 薬品	運輸	メディカル	コス メ テ ィ ッ ク	計		
売上高							
外部顧客への 売上高	23,634	4,275	-	101	28,012	308	28,320
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	31	2,826	-	-	2,858	175	3,033
計	23,666	7,102	-	101	30,870	484	31,354
セグメント利益 又は損失()	4,498	626	716	346	4,061	589	3,472
セグメント資産	30,830	7,371	1,363	87	39,654	949	40,603
その他の項目							
減価償却費	1,922	631	11	8	2,574	30	2,604
のれんの償却額	-	-	-	-	-	151	151
持分法適用会社への 投資額	150	-	-	-	150	-	150
有形固定資産および 無形固定資産の 増加額	2,928	314	7	9	3,259	44	3,303

(注) 「その他」には、当社グループが行っている保険代理事業、自動車整備事業、EMS事業(エネルギー管理システムの開発)およびムーンライト事業(蓄光製品の製造販売)を含んでいます。

当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	高純度 薬品	運輸	メディカル	コスメ ティック	計		
売上高							
外部顧客への 売上高	24,117	4,677	-	222	29,017	254	29,271
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	110	2,804	-	-	2,914	198	3,112
計	24,227	7,481	-	222	31,932	452	32,384
セグメント利益 又は損失（ ）	2,907	818	626	280	2,818	421	2,397
セグメント資産	31,266	7,153	1,720	91	40,231	238	40,469
その他の項目							
減価償却費	1,810	581	11	4	2,408	29	2,437
のれんの償却額	-	-	-	-	-	154	154
減損損失	-	-	-	-	-	508	508
持分法適用会社への 投資額	150	-	-	-	150	-	150
有形固定資産および 無形固定資産の 増加額	5,641	338	327	-	6,306	7	6,314

（注）「その他」には、当社グループが行っている保険代理事業、自動車整備事業、エネルギーマネジメント事業（ネットワーク関連機器およびソフトウェア開発販売）およびムーンライト事業（蓄光製品の製造販売）を含んでいます。

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額および当該差額の内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	30,870	31,932
「その他」の区分の売上高	484	452
セグメント間取引消去	3,033	3,112
連結財務諸表の売上高	28,320	29,271

（単位：百万円）

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	4,061	2,818
「その他」の区分の利益	589	421
セグメント間取引消去	11	9
連結財務諸表の営業利益	3,483	2,406

(単位：百万円)

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	39,654	40,231
「その他」の区分の資産	949	238
全社資産(注)	50	45
その他の調整額	937	314
連結財務諸表の資産合計	39,717	40,200

(注) 全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない当社の長期投資資金(投資有価証券および会員権)です。

【関連情報】

前連結会計年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しています。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	韓国	アジア (その他)	北米	欧州	その他	合計
16,854	6,133	4,499	573	249	10	28,320

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しています。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称または氏名	売上高	関連するセグメント名
丸善薬品産業株式会社	6,263	高純度薬品

当連結会計年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しています。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	韓国	アジア (その他)	北米	欧州	その他	合計
17,337	7,043	3,575	727	584	4	29,271

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しています。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称または氏名	売上高	関連するセグメント名
丸善薬品産業株式会社	7,378	高純度薬品

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

固定資産の減損損失に関しては、セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略していません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

（単位：百万円）

	高純度 薬品	運輸	メディカル	コス メ テ ィ ツ ク	その他(注)	全社・消去	合計
当期末残高	-	-	-	-	535	-	535

（注）1．「その他」には、当社グループが行っている保険代理事業、自動車整備事業、EMS事業（エネルギー管理システムの開発）およびムーンライト事業（蓄光製品の製造販売）を含んでいます。

2．のれんの償却額に関しては、セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しています。

当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

のれんの償却額に関しては、セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しています。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

前連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
関連会社	フェクト株式会社	韓国忠清南道公州市	3,200	高純度薬品の製造・販売	(所有) 直接 39	当社製品の販売 役員の兼任	当社製品の販売	4,524	売掛金	482

(注) 1. 製品の販売は、主に丸善薬品産業㈱を経由しています。

2. 上記(1)の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれています。

(取引条件および取引条件の決定方針等)

製品の販売については、市場価格からフェクト株式会社での製造・小分け等加工賃を差し引いて決定しています。

当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
関連会社	フェクト株式会社	韓国忠清南道公州市	3,200	高純度薬品の製造・販売	(所有) 直接 39	当社製品の販売 役員の兼任	当社製品の販売	5,711	売掛金	473

(注) 1. 製品の販売は、主に丸善薬品産業㈱を経由しています。

2. 上記(1)の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれています。

(取引条件および取引条件の決定方針等)

製品の販売については、市場価格からフェクト株式会社での製造・小分け等加工賃を差し引いて決定しています。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)		当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	
1株当たり純資産額	1,488円67銭	1株当たり純資産額	1,519円52銭
1株当たり当期純利益金額	147円36銭	1株当たり当期純利益金額	76円69銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、 潜在株式が存在していないため記載していません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、 潜在株式が存在していないため記載していません。	

(注) 1. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前連結会計年度末 (平成23年3月31日)	当連結会計年度末 (平成24年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	18,615	18,977
純資産の部の合計額から控除する金額 (百万円)	305	288
(うち少数株主持分)	(305)	(288)
普通株式に係る期末の純資産額 (百万円)	18,309	18,689
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数(千株)	12,299	12,299

(注) 2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(百万円)	1,812	943
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(百万円)	1,812	943
期中平均株式数(千株)	12,299	12,299

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	2,509	4,186	0.77	-
1年内返済予定の長期借入金	3,504	4,265	1.12	-
1年内返済予定のリース債務	2	2	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	7,396	5,984	1.13	平成25年～33年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	8	6	-	-
その他有利子負債	-	-	-	-
計	13,421	14,445	-	-

(注) 1. 「平均利率」については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しています。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を定額法により各連結会計年度に配分しているため、記載していません。

3. 長期借入金およびリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりです。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	2,704	1,488	632	109
リース債務	2	2	2	0

4. 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)のうち、独立行政法人科学技術振興機構からの借入金10億16百万円は無利息です。平均利率の算定には含めていません。

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首および当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首および当連結会計年度末における負債および純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しています。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	7,499	15,444	22,688	29,271
税金等調整前四半期(当期)純利益金額(百万円)	886	1,546	2,261	1,966
四半期(当期)純利益金額(百万円)	562	994	1,347	943
1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	45.74	80.89	109.59	76.69

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益(損失)金額(円)	45.74	35.15	28.70	32.90

2【財務諸表等】
(1)【財務諸表】
【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,936	1,627
受取手形	3 419	3 423
売掛金	5,142	5,182
商品及び製品	1,006	1,477
仕掛品	740	964
原材料及び貯蔵品	311	358
前払費用	56	67
繰延税金資産	197	199
未収消費税等	-	18
その他	221	175
貸倒引当金	8	44
流動資産合計	13,024	10,451
固定資産		
有形固定資産		
建物	6,724	6,668
減価償却累計額	3,770	3,904
建物(純額)	2,954	2,763
構築物	2,904	2,916
減価償却累計額	2,171	2,326
構築物(純額)	733	590
機械及び装置	16,987	17,098
減価償却累計額	12,681	13,204
機械及び装置(純額)	4,305	3,894
車両運搬具	93	92
減価償却累計額	79	85
車両運搬具(純額)	14	7
工具、器具及び備品	2,187	2,215
減価償却累計額	1,951	2,000
工具、器具及び備品(純額)	235	215
土地	2,600	2,579
リース資産	400	719
減価償却累計額	126	222
リース資産(純額)	273	496
建設仮勘定	3,128	7,389
有形固定資産合計	14,246	17,936
無形固定資産		
ソフトウェア	13	16
その他	7	7
無形固定資産合計	20	24

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	45	40
関係会社株式	2,274	2,136
関係会社長期貸付金	1,277	1,178
長期前払費用	8	3
会員権	5	5
繰延税金資産	450	301
破産更生債権等	-	308
その他	121	191
貸倒引当金	624	1,438
投資その他の資産合計	3,559	2,725
固定資産合計	17,826	20,686
資産合計	30,851	31,137
負債の部		
流動負債		
支払手形	668	621
買掛金	2 1,123	2 892
短期借入金	-	1,500
1年内返済予定の長期借入金	2,380	3,082
リース債務	2 63	2 107
未払金	843	1,243
未払費用	134	150
未払法人税等	732	67
未払消費税等	133	-
預り金	14	16
設備関係支払手形	1,461	1,246
賞与引当金	144	217
デリバティブ債務	16	30
その他	-	5
流動負債合計	7,718	9,181
固定負債		
長期借入金	4,645	3,451
リース債務	2 209	2 389
長期未払金	2 849	2 1,102
退職給付引当金	604	423
役員退職慰労引当金	391	422
資産除去債務	8	8
その他	261	145
固定負債合計	6,969	5,943
負債合計	14,687	15,125

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,180	3,180
資本剰余金		
資本準備金	3,288	3,288
資本剰余金合計	3,288	3,288
利益剰余金		
利益準備金	205	205
その他利益剰余金		
別途積立金	7,900	8,700
繰越利益剰余金	1,598	660
利益剰余金合計	9,703	9,565
自己株式	1	1
株主資本合計	16,171	16,032
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2	1
繰延ヘッジ損益	9	18
評価・換算差額等合計	7	19
純資産合計	16,163	16,012
負債純資産合計	30,851	31,137

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高		
製品売上高	1 20,045	1 20,372
商品売上高	1,406	1,708
売上高合計	21,452	22,081
売上原価		
製品期首たな卸高	615	887
商品期首たな卸高	93	118
当期製品製造原価	1 12,682	1 14,388
当期商品仕入高	1,150	1,240
合計	14,541	16,634
製品期末たな卸高	6 887	6 1,353
商品期末たな卸高	118	124
売上原価合計	13,535	15,157
売上総利益	7,916	6,924
販売費及び一般管理費	2, 3 4,959	2, 3 5,355
営業利益	2,957	1,568
営業外収益		
受取利息	1 12	1 15
受取配当金	1 270	1
受取賃貸料	1 75	1 73
受取ロイヤリティ	1 85	1 63
為替差益	-	39
デリバティブ評価益	-	103
その他	1 51	1 86
営業外収益合計	496	383
営業外費用		
支払利息	81	84
為替差損	107	-
賃貸収入原価	22	20
デリバティブ評価損	237	-
貸倒引当金繰入額	624	637
その他	0	0
営業外費用合計	1,073	743
経常利益	2,380	1,208
特別利益		
固定資産売却益	4 0	4 90
貸倒引当金戻入額	0	-
特別利益合計	0	90

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
特別損失		
固定資産廃棄損	5 17	5 70
投資有価証券評価損	5	-
関係会社株式評価損	99	138
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	5	-
特別損失合計	128	209
税引前当期純利益	2,252	1,089
法人税、住民税及び事業税	1,099	605
法人税等調整額	163	154
法人税等合計	936	760
当期純利益	1,315	328

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)		当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
材料費		7,510	58.9	9,062	62.0
労務費	1	1,232	9.7	1,491	10.2
経費	2	4,000	31.4	4,058	27.8
当期総製造費用		12,743	100.0	14,612	100.0
期首仕掛品たな卸高		679		740	
合計		13,423		15,353	
期末仕掛品たな卸高		740		964	
当期製品製造原価		12,682		14,388	

原価計算の方法

当社の原価計算は、総合原価計算による実際原価計算を採用しています。

(注) 1. 労務費の主な内訳は、次のとおりです。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)		当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
給与及び手当	766百万円	給与及び手当	917百万円
賞与	157	賞与	168
法定福利費	140	法定福利費	168

2. 経費の主な内訳は、次のとおりです。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)		当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
減価償却費	1,478百万円	減価償却費	1,471百万円
修繕費	543	修繕費	566
容器包装費	321	容器包装費	315
業務委託費	468	業務委託費	496

【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	3,180	3,180
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	3,180	3,180
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	3,288	3,288
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	3,288	3,288
資本剰余金合計		
当期首残高	3,288	3,288
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	3,288	3,288
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	205	205
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	205	205
その他利益剰余金		
別途積立金		
当期首残高	7,300	7,900
当期変動額		
別途積立金の積立	600	800
当期変動額合計	600	800
当期末残高	7,900	8,700
繰越利益剰余金		
当期首残高	1,362	1,598
当期変動額		
剰余金の配当	479	467
当期純利益	1,315	328
別途積立金の積立	600	800
当期変動額合計	235	938
当期末残高	1,598	660
利益剰余金合計		
当期首残高	8,867	9,703
当期変動額		
剰余金の配当	479	467
当期純利益	1,315	328
当期変動額合計	835	138
当期末残高	9,703	9,565

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
自己株式		
当期首残高	1	1
当期変動額		
自己株式の取得	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	1	1
株主資本合計		
当期首残高	15,335	16,171
当期変動額		
剰余金の配当	479	467
当期純利益	1,315	328
自己株式の取得	0	0
当期変動額合計	835	138
当期末残高	16,171	16,032
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	9	2
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	7	3
当期変動額合計	7	3
当期末残高	2	1
繰延ヘッジ損益		
当期首残高	-	9
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	9	8
当期変動額合計	9	8
当期末残高	9	18
評価・換算差額等合計		
当期首残高	9	7
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	16	12
当期変動額合計	16	12
当期末残高	7	19
純資産合計		
当期首残高	15,344	16,163
当期変動額		
剰余金の配当	479	467
当期純利益	1,315	328
自己株式の取得	0	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	16	12
当期変動額合計	818	151
当期末残高	16,163	16,012

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【重要な会計方針】

1. 有価証券の評価基準及び評価方法
 - (1) 子会社株式および関連会社株式
移動平均法による原価法によっています。
 - (2) その他有価証券
時価のあるもの
決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）によっています。
時価のないもの
移動平均法による原価法によっています。
2. デリバティブ等の評価基準および評価方法
 - (1) デリバティブ
時価法によっています。
3. たな卸資産の評価基準及び評価方法
総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しています。
4. 固定資産の減価償却の方法
 - (1) 有形固定資産（リース資産を除く）
機械及び装置
定額法によっています。
なお、主な耐用年数は8年です。
その他の有形固定資産
定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法）によっています。なお、主な耐用年数は以下のとおりです。
建物 10～40年
少額減価償却資産
取得価額が10万円以上20万円未満の資産については、3年均等償却によっています。
 - (2) 無形固定資産（リース資産を除く）
定額法によっています。
なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいています。
 - (3) リース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しています。
なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。
5. 外貨建の資産および負債の本邦通貨への換算基準
外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しています。
6. 引当金の計上基準
 - (1) 貸倒引当金
売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しています。
 - (2) 賞与引当金
従業員の賞与の支払に備えて、賞与支給見込額の当期負担額を計上しています。
 - (3) 退職給付引当金
従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しています。
（追加情報）
当社は、確定拠出年金法の施行に伴い、平成23年6月に適格退職年金制度を廃止するとともに、退職一時金制度の一部について確定拠出年金制度へ移行し、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」（企業会計基準適用指針第1号）を適用しています。本移行に伴う損益に与える影響はありません。
 - (4) 役員退職慰労引当金
役員の退職慰労金の支出に備えて、内規に基づく期末要支給額を計上しています。

7. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっています。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...通貨オプション取引

ヘッジ対象...原材料輸入による外貨建て買入債務および外貨建予定取引

(3) ヘッジ方針

通貨オプション取引は、輸入仕入に係る為替変動リスクをヘッジする目的で外貨建予定取引の決済に必要な範囲内で行っています。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計と、ヘッジ手段の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計を比較し両者の変動額を基礎にして行っています。

なお、高い有効性があるとみなされる場合については、有効性の評価を省略しています。

8. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっています。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)および「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しています。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

1 保証債務

次の関係会社等について、金融機関からの借入に対し債務保証を行っています。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
STELLA CHEMIFA SINGAPORE PTE LTD	1,177百万円	STELLA CHEMIFA SINGAPORE PTE LTD 1,270百万円
ステラファーマ(株)	1,016	ステラファーマ(株) 1,206

2 関係会社項目

関係会社に対する資産および負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
買掛金	672百万円	481百万円
長期未払金	849	1,102
リース債務	273	496

3 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしています。なお、当期の末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が期末残高に含まれています。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
受取手形	- 百万円	55百万円

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれています。

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
売上高	4,815百万円	5,865百万円
原材料仕入高	4,814	6,334
受取賃貸料	65	65
受取配当金	269	-
受取ロイヤリティー	85	63
その他営業外収益	24	51

2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度45%、当事業年度40%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度55%、当事業年度60%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりです。

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
荷造運搬費	1,818百万円	1,719百万円
広告宣伝費	252	310
給料及び手当	248	264
賞与引当金繰入額	28	42
役員退職慰労引当金繰入額	89	31
研究開発費	1,291	1,143
減価償却費	29	38
業務委託費	80	290
貸倒引当金繰入額	-	344

3 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
	1,291百万円	1,143百万円

4 固定資産売却益の内容は次のとおりです。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
土地等	- 百万円	90百万円
車両運搬具	0	-
計	0	90

5 固定資産廃棄損の内容は次のとおりです。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
建物	2百万円	25百万円
構築物	5	4
機械及び装置	8	36
車両運搬具	0	0
工具器具及び備品	1	4
計	17	70

6 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下げ後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれています。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
	124百万円	12百万円

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成22年 4月 1日 至平成23年 3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数(株)	当事業年度増加 株式数(株)	当事業年度減少 株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
普通株式(注)	373	92	-	465
合計	373	92	-	465

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加92株は、単元未満株式の買取りによるものです。

当事業年度(自平成23年 4月 1日 至平成24年 3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数(株)	当事業年度増加 株式数(株)	当事業年度減少 株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
普通株式(注)	465	104	-	569
合計	465	104	-	569

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加104株は、単元未満株式の買取りによるものです。

(リース取引関係)
ファイナンス・リース取引
所有権移転外ファイナンス・リース取引
リース資産の内容
有形固定資産
高純度薬品事業における生産設備(車両運搬具、工具、器具及び備品)です。
リース資産の減価償却の方法
重要な会計方針「4. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりです。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりです。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額および期末残高相当額
(単位:百万円)

	前事業年度(平成23年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
車両運搬具	130	91	38
工具、器具及び備品	737	539	198
合計	867	631	236

(単位:百万円)

	当事業年度(平成24年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
車両運搬具	107	85	21
工具、器具及び備品	583	475	108
合計	690	560	129

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

(単位:百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	178	113
1年超	155	66
合計	333	180

(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額、支払利息相当額および減損損失
(単位:百万円)

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
支払リース料	270	199
減価償却費相当額	141	107
支払利息相当額	84	45

(4) 減価償却費相当額の算定方法
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっています。

(5) 利息相当額の算定方法
リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっています。

(減損損失について)
リース資産に配分された減損損失はありません。

(有価証券関係)

前事業年度(平成23年3月31日)

子会社株式および関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社2,124百万円、関連会社株式150百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載していません。

当事業年度(平成24年3月31日)

子会社株式および関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社1,986百万円、関連会社株式150百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載していません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税	59百万円	11百万円
棚卸資産評価損	65	65
賞与引当金	58	82
貸倒引当金	257	474
減価償却超過額	50	38
退職給付引当金	245	152
役員退職慰労引当金	159	150
有価証券評価損	60	70
会員権評価損	19	16
その他	17	45
繰延税金資産 小計	993	1,106
評価性引当額	342	605
繰延税金資産 合計	651	501
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	1	-
資産除去債務に対応する除去費用	1	0
繰延税金負債計	2	0
繰延税金資産の純額	648	500

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	法定実効税率と税効果 会計適用後の法人税等 の負担率との間の差異	40.7%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	が法定実効税率の100 分の5以下であるため 注記を省略していま す。	0.6
住民税均等割		1.0
評価性引当額の増減		32.1
試験研究費の特別控除等		9.2
外国税額控除		0.6
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正		4.9
その他		0.2
税効果会計適用後の法人税等の負担率		69.8

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)および「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率の引下げおよび復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産および繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の40.7%から平成24年4月1日に開始する事業年度から平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については38.0%に、平成27年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については、35.6%となります。

この税率変更により、繰延税金資産は54百万円減少(繰延税金負債は0百万円減少)し、法人税等調整額が53百万円、その他有価証券評価差額金が0百万円、繰延ヘッジ損益が0百万円、それぞれ増加しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務に関しては、金額的に重要性が乏しいため記載を省略しています。

(1株当たり情報)

前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
1株当たり純資産額 1,314円17銭	1株当たり純資産額 1,301円89銭
1株当たり当期純利益金額 106円97銭	1株当たり当期純利益金額 26円73銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在していないため記載していません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在していないため記載していません。

(注) 1 . 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前事業年度末 (平成23年 3月31日)	当事業年度末 (平成24年 3月31日)
純資産の部の合計額 (百万円)	16,163	16,012
純資産の部の合計額から控除する金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る期末の純資産額 (百万円)	16,163	16,012
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数 (千株)	12,299	12,299

(注) 2 . 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益 (百万円)	1,315	328
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益 (百万円)	1,315	328
期中平均株式数 (千株)	12,299	12,299

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

有価証券の金額が資産の総額の100分の1以下であるため、財務諸表等規則第124条の規定により記載を省略しています。

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	6,724	116	173	6,668	3,904	264	2,763
構築物	2,904	27	16	2,916	2,326	166	590
機械及び装置	16,987	523	412	17,098	13,204	898	3,894
車両運搬具	93	1	2	92	85	8	7
工具器具及び備品	2,187	125	98	2,215	2,000	142	215
土地	2,600	-	20	2,579	-	-	2,579
リース資産	400	318	-	719	222	95	496
建設仮勘定	3,128	5,153	892	7,389	-	-	7,389
有形固定資産計	35,027	6,267	1,615	39,679	21,743	1,576	17,936
無形固定資産							
ソフトウェア	21	8	2	27	10	5	16
その他	10	-	2	7	0	0	7
無形固定資産計	31	8	5	35	11	5	24
長期前払費用	8	3	-	11	7	7	3

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは次のとおりです。

機械及び装置	泉工場LiBF4製造設備関連	173百万円
	泉工場LiPF6製造設備関連	82百万円
	三宝工場半導体用高純度フッ化水素酸製造設備関連	55百万円
リース資産	タンクローリー等	318百万円
建設仮勘定	泉工場LiPF6製造設備関連	3,929百万円
	三宝工場半導体用高純度フッ化水素酸製造設備関連	231百万円

(注) 2. 当期減少額のうち主なものは次のとおりです。

機械及び装置	泉工場LiPF6製造設備関連	312百万円
--------	----------------	--------

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	632	1,042	131	61	1,482
賞与引当金	144	217	144	-	217
役員退職慰労引当金	391	31	-	-	422

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、一般債権の貸倒実績率による洗替額です。

(2)【主な資産及び負債の内容】

現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	4
預金	
当座預金	384
普通預金	1,205
別段預金	1
郵便貯金	30
小計	1,622
合計	1,627

受取手形

(イ)相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
セイブ化成(株)	144
大宮化成(株)	116
東鉱商事(株)	43
(株)岩田商会	26
物産ケミカル(株)	23
その他	69
合計	423

(ロ)期日別内訳

期日別	金額(百万円)
平成24年4月	163
5月	103
6月	93
7月	52
8月	9
9月	0
合計	423

売掛金

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
三菱化学(株)	1,133
丸善薬品産業(株)	782
ダイキン工業(株)	500
(株)東芝	464
早川商事(株)	284
その他	2,017
合計	5,182

(ロ) 売掛金の発生および回収ならびに滞留状況

当期首残高 (百万円)	当期発生高 (百万円)	当期回収高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	(A) + (D)
					2
					(B)
					366
5,142	22,738	22,698	5,182	81.4	83.1

(注) 当期発生高には消費税等が含まれています。

商品及び製品

(イ) 商品

品名	金額(百万円)
アクア ミスティーク	28
マダム アルバ	14
酸性フッ化アンモニウム	14
フッ化アルミニウム	8
その他	58
合計	124

(ロ) 製品

品名	金額(百万円)
濃縮ホウ素化合物	491
半導体装置用フッ化物(高純度フッ化カルシウム等)	383
電池用フッ化物(電解質等)	141
触媒用フッ化物(三フッ化ホウ素等)	73
半導体・液晶用フッ化水素酸	46
その他	216
合計	1,353

仕掛品

品名	金額(百万円)
濃縮ホウ素化合物	317
無水フッ化水素酸	221
電池用フッ化物(電解質等)	105
半導体・液晶用フッ化水素酸	61
触媒用フッ化物	36
その他	222
合計	964

原材料及び貯蔵品

(イ) 原材料

品名	金額(百万円)
リン関連原料	91
無水フッ化水素酸	49
蛍石	34
スズ関連原料	17
セシウム関連原料	17
その他	55
合計	264

(ロ) 貯蔵品

品名	金額(百万円)
包装資材	46
修繕部品	47
合計	93

関係会社株式

区分	金額(百万円)
STELLA CHEMIFA SINGAPORE PTE LTD	802
ブルーエクスプレス(株)	640
浙江瑞星フッ化工業有限公司	361
フェクト(株)	150
ステラファーマ(株)	100
ステラグリーン(株)	61
その他	20
合計	2,136

支払手形

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
北作商事(株)	111
本荘ケミカル(株)	52
コダマ樹脂工業(株)	34
(株)ダイキンアプライドシステムズ	32
(有)大宮理化製作所	31
その他	358
合計	621

(ロ) 期日別内訳

期日別	金額(百万円)
平成24年4月	168
5月	151
6月	146
7月	133
8月	20
合計	621

買掛金

相手先	金額(百万円)
ブルーエクスプレス(株)	432
前田化学(株)	87
関東化学(株)	60
大阪ガス(株)	45
STELLA CHEMIFA SINGAPORE PTE LTD	27
その他	238
合計	892

長期借入金（うち、1年以内に返済予定の長期借入金）

相手先	金額（百万円）
(株)三菱東京UFJ銀行	2,515 (880)
(株)みずほ銀行	1,544 (776)
住友信託銀行(株)	1,098 (622)
(株)りそな銀行	934 (508)
(株)三井住友銀行	400 (280)
日本生命保険相互会社	42 (16)
合計	6,533 (3,082)

(注) ()内金額は、内数であり1年以内返済金額であるため、貸借対照表上は流動負債（1年以内返済予定の長期借入金）として記載しています。

設備関係支払手形

(イ) 相手先別明細

相手先	金額（百万円）
JOINTエンジニアリング(株)	397
東興鉛鉄工業(株)	225
東洋ハイテック(株)	158
東京電機産業(株)	121
八千代電設工業(株)	49
その他	293
合計	1,246

(ロ) 期日別明細

期日別	金額（百万円）
平成24年 4月	186
5月	289
6月	201
7月	444
8月	123
合計	1,246

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区北浜4丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 大阪市中央区北浜4丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	大阪証券取引所の定める単元株式数当たりの売買委託手数料を買取株式数で按分した額。
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL http://www.stella-chemifa.co.jp
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利ならびに単元未満株式の売渡請求をする権利以外の権利を有していません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しています。

(1) 有価証券報告書およびその添付書類ならびに確認書

事業年度（第68期）（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）平成23年6月17日近畿財務局長に提出

(2) 内部統制報告書およびその添付資料

平成23年6月17日近畿財務局長に提出

(3) 四半期報告書および確認書

（第69期第1四半期）（自平成23年4月1日至平成23年6月30日）平成23年8月10日近畿財務局長に提出

（第69期第2四半期）（自平成23年7月1日至平成23年9月30日）平成23年11月11日近畿財務局長に提出

（第69期第3四半期）（自平成23年10月1日至平成23年12月31日）平成24年2月14日近畿財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成23年6月21日近畿財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書です。

平成24年3月16日近畿財務局長に提出

金融商品取引法第24条の5第4項ならびに企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号および第19号に基づく臨時報告書です。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年6月15日

ステラケミファ株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松村 豊 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 平岡 義則 印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているステラケミファ株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ステラケミファ株式会社及び連結子会社の平成24年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、ステラケミファ株式会社の平成24年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、ステラケミファ株式会社が平成24年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1 . 上記は、監査報告書および内部統制監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2 . 連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成24年6月15日

ステラケミファ株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松村 豊 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 平岡 義則 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているステラケミファ株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第69期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ステラケミファ株式会社の平成24年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。